復刊第163号
題字　吉岡彌生

巻頭言

再び会長に選出されて

会長　橋本葉子

橋本葉子会長

緑が深みを増してきました5月20日(土)、生憎の雨になってしまいましたが、評議員会・総会とも委任状を入れて定足数をはるかに越える数になり、どちらも成立致しました。理事・監事は定数内の立候補でございましたので、会長、副会長の選挙のみを理事の互選で行い、不肖橋本が会長に再選されました。私個人は多選反対論者で一期三年ならば二期、一期二年ならば三期までが妥当と考えております。前期は佐藤千代子会長のご病気のため、二年目から私が会長職に就きましたので、今期はお引き受けすることに致しました。今回は役員選挙の年でありましたので、東京で総会・評議員会が開催されましたが東京都支部連合会の至れり尽くせりのお心遣いで、前夜祭、朝食会、観劇その他のイベントと、参加された会員の皆様は十分楽しんでいただけたことと存じます。改めまして、東京都支部連合の斎藤歌子会長、守屋孝子・中山年子両副会長を始め、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

2000年～2003年までの今期には、日本女医会創立百周年（2002年）という大きな節目が入ります。済生学舎が女子の入学を拒否しましたので、女子の医学教育への道は閉ざされてしまいました。これを憂い、女性の社会的地位の向上のためにも女子の医学教育は絶対必要であるという信念のもとに、吉岡彌生先生が御年二十九歳の若さで東京女医学校を創設されましたのが、1900年12月5日であります。その二年後、1902年に済生学舎卒業の女性医師が前田園子先生を中心に日本女医会を設立し、親睦と研修を兼ねた会合になっておりました。1914年第一回日本女医会総会が上野精養軒で開かれ、前田園子先生が初代会長に選出され、正式に発足しました。しかし、今日のような組織ができましたのは戦後の1957年のことであります。社団法人が認可されましたのは1969年でありました。爾来、吉岡弥生賞、研究助成、学術講演研修会など女性医師の啓蒙、公開講座などによる一般社会人の啓蒙、国際女医会議・西太平洋地域会議への参加などによる国際交流、国連NGO国内婦人委員会加入団体としての社会的活動等、活動の場を拡げて今日に至っております。

活動の場は拡がっており、女性医師数も増加しているにもかかわらず、会員数の漸減は防ぎようがありません。一言で言えば、今の日本女医会には入会するだけの魅力がないということでありましょう。しかし、日本女医会が宣伝が下手なこともたしかだと思います。今日の情報化時代に少し乗り遅れていたことは否めません。多数の共学の出身者は日本女医会の存在すらご存知ないようです。昨年、各大学に在籍中の女医会員の

もくじ

巻頭言―再び会長に選出されて―……橋本　葉子（1）
副会長に就任して……石原　幸子（2）
副会長に就任して……加藤　竺子（3）
副会長に就任して……橋川ふさ子（3）
監事に再任されて……野澤　良美（4）
監事に就任して……松本　文絵（4）
〈各部の抱負〉
庶務部……清水　洋子（4）　会計部……青井　禮子（5）
学術部……澤口　彰子（5）　渉外部……田中　蘭子（5）
事業部……平敷　淳子（6）　広報部……大坪　公子（6）
新理事に就任して……内潟　安子・角田由美子（9）
新理事として……森川由紀子・山崎　トヨ（10）
新理事として……山崎　康子・山本　纐子（11）
新理事に就任して……山本　蒔子（12）
〈第45回日本女医会定時総会〉
第45回定時総会開く……（12）
定時総会議事録……（12）
総会会長挨拶……橋本　葉子（14）
吉岡弥生賞（医学部門）を受賞して……山本　纐子（16）
吉岡弥生賞（社会部門）を受賞して……橋本美知子（17）
地域功労賞を受賞して
学術研究助成を授与されて……佐藤　秩子（18）
〈特別講演〉社会が求める医療をめざして……青柳　俊（18）
支部連合会として―準備などなど……斎藤　歌子（20）
総会こぼれ話……中山　年子（21）
お茶席雑感……守屋　孝子（21）
第45回定時総会に参加して……柳田喜美子（23）
お相撲観戦……窪　斐子（23）
初めての観劇……金田八重子（24）
有珠山救援募金報告……濱田　啓子（24）
WHO神戸会議に参加して……加藤　竺子（24）
〈書評〉低用量ピル適正使用マニュアル……上田嘉代子（25）
〈支部だより〉山梨支部から……古屋　節子（25）
〈私の大学〉日本大学医学部……渡利　弘子（26）
・第25回国際女医会議のご案内……（8）
・新医学用語豆辞典……（12）
・理事会議事録（1月、2月、3月）……（26）
・評議員会議事録……（28）
・会員動静……（28）

方に女医会本部との連絡係をお願いいたしました。この先生方が女医会の情報を女性医師ならびに女子学生に伝えていただけることを期待しております。また、昨年よりホームページを開き、新しい情報もお伝えできるようになってきております。しかし、まだまだの感が致します。

現在、日本女医会が力を入れております事業は、次の事項であります。

①創立百周年記念事業（第26回国際女医会議誘致を含む）。

②ブロック別懇談会の開催。会員増強を目的としておりますが、その地域の問題点を抽出することも考慮に入れております。

③働く女性のための環境整備（環境整備小委員会の活動）：育児環境の整備、育児期間の認定医・専門医等の単位の問題、選択的夫婦別姓の問題・医師の雇用保険等。

④学術研修及び一般市民への公開講座。

⑤医療功労賞国内中央推薦部門候補者の推薦。

⑥国際協力（リマの記念病院の支援など）。

特に2004年に予定されております第26回国際女医会議が日本で開催されることになりますと、ITを駆使できる若手の会員の支援が不可欠になります。私個人も1976年に開催されました第15回国際女医会議の時に、学術担当委員として駆り出されたのが、日本女医会の運営に参画するきっかけになりました。専門分野や卒業大学に固定されない女性医師との交流から得る財産は、計り知れないものがあることを実感しております。どうぞ会員の皆様、まず、支部の活動を活発にしていただきたいと思います。そして、21世紀には、日本女医会が女性医師のためだけではなく、働く女性のための環境整備や、男女共同参画に寄与できる団体として、社会に認められるよう基礎作りに参加して下さい。

副会長に就任して

副会長　石原幸子

第45回日本女医会総会において、新役員も決まり、幾分若返った理事会が発足いたしました。　不肖私も副会長を二期務めることになりました。今期は特別行事も多く、その荷の重大さをかみしめているところでございます。2001年のシドニー国際会議、2002年の日本女医会創立百周年記念行事、2004年東京国際会議の開催準備など、目白押しのイベントの連続ですが、ひとつひとつ丁寧に実行してゆきたいと存じますので、皆さまの一層のご協力をお願いいたします。企画力抜群の橋本会長の下で、身軽な私が少しでもお役に立てば幸いと思っております。

省みますと、この間皆さまにはっきりご報告できることが幾つかございます。

第一は日本医師会と日本女医会のパイプが始めて出来上がったことです。日本医師会の少子化検討委員会に、女医会から一名委託がございました。在京ということで私が出席いたしましたが、各分野のオーソリティの集まりで、見事な会でございました。第二は同様に女性懇談会も設置され、本年も引き続き行われるとの依頼がございました。このように日本医師会ともども増加する女性医師に対する新しい目が向いて参りました。今期こそ、日本女医会が飛躍する絶好の機会と存じます。

お若い先生方に、女医会のメリットはとよく聞かれますが、今私はは っきりと、何もありませんと答えられます。私どもの先輩が、百年前から苦労を重ねて築いてきたこの女医会が、ようやく社会の中で輝く席を得、女医に対するあらゆるニーズに応えられる時代がきたことを自覚して、21世紀の後輩に伝えてゆく組織を作ってゆこうと努力していると

ころです。

微力ながら、私も一生懸命がんばりますので、皆さまのご支援、ご鞭撻を心よりお願い申しあげる次第です。

副会長に就任して

副会長　加藤竺子

第45回総会において副会長に選ばれ、橋本会長をお支えする一翼を担うことになり、責任の重大さを痛感しております。

考えてみますと、日本女医会にとって今期は、たいへん重要な課題が多く、会長を中心に理事会が結束して、21世紀の女医会の基盤づくりをはじめ、会の将来戦略に知恵と努力が必要ではないかと思います。

いま、日本社会は、さまざまなところで、変革の潮流が押し寄せています。私どもに密接な関係のある医療、保健、福祉の分野でも制度改革や社会革新が提唱されています。目覚ましく発展しつつあるマルチメディアによる情報化のなかで女性の専門職として、原点を見失わず、新しい世紀へ希望をもって豊かな社会づくりに貢献したいものです。

1902年に大先輩の先生方が女医会を創設されたときの理念と情熱を思い起こし、連綿と築かれ歴史を大切に、会のよりよい発展をめざし、微力ながら努力しなければ、と決意をあらたにしております。

どうか皆さまのご指導ご鞭撻を心からお願いいたします。

副会長に就任して

副会長　橋川ふさ子

第45回総会において不肖橋川が再度副会長に選出されました。改めてその重責に緊張いたしました。引続き会長に就任されました橋本先生は大きな包容力と温厚なお人柄の上に若い柔軟な発想を次々と進展されるすばらしい先生でございます。この会長の下でお役に立ちますように尽力いたすつもりでございます。

副会長として一期経験しました私は地方在住では無理と痛感しました、また個人的な悪条件もあります。女医会は今後数年のうちに大事な行事が控えており、多事多忙となります時期に、このような私のハンデをご承知の上での今回の選挙結果が出ました。私は忸怩たるものがございましたが真摯に受けとめ、相当の覚悟でこの大任をお引受けいたしました。

さて、時代の流れとともに女医会も少しずつ変遷しつつあります。女医会としましてはまず医療の実態をよく認識し、体制をきちっと整える取り組みが必要と思います。そして世界的視野の上に立った組織を展開しなければと考えております。

今後の活動には何としてもエネルギーを必要としますが、女医会へ参加していただき、百年の伝統ある女医会を継承しながら新しい発展を促し、社会に政治にも参入して、若い力を存分に発揮して、より一層女医が高い評価をされることを望んでおります。

どうぞ今後ともよろしくご支援ご指導を賜わりますようにお願い申しあげます。

宮崎 PHOENIX seagaia
太陽のグローバル・リゾート
「宮崎シーガイア」
宮崎シーガイア
〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 TEL.0985-21-1111(大代表)
●シーガイアホームページアドレス　http://www.seagaia.co.jp

遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤　薬価基準収載
劇薬、指定医薬品、要指示医薬品：注意－医師等の処方せん・指示により使用すること
EPOGIN
エポジン®注
750　6000
1500　9000
3000　12000
EPOGIN® Injection
一般名：エポエチン ベータ（遺伝子組換え）
※効能・効果、用法・用量、使用上の注意、取扱い上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。
CHUGAI 中外製薬
〔資料請求先〕
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9
CEP9057
1999.5

監事に再任されて

監事　野澤良美

今期も引きつづき監事として、お手伝いさせていただくことになりました。

ご承知のように、日本女医会では多くの行事が予定されております。

○日本女医会百周年記念事業
○国際女医会議開催に関する件
○環境整備小委員会の件、等々

日本女医会々長橋本葉子先生のもと、新進気鋭の理事の先生方とご一緒に協力しあい、和やかな雰囲気のもと、全力をあげて会の運営に携わってまいりたいと願っております。どうぞよろしくご指導賜りますよう、また微力ながら今後とも努めてまいる所存でございます。

監事に就任して

監事　松本文絵

このたび、監事を預かることになりました。「監事ってどんなことをするのですか」とたずねてみたところ「会社では支出に問題があるからそのチェックをするところ」ということでした。それならば、わが日本女医会にはベテランの理事の先生方や、事務員さんがいらっしゃるので、アバウトな私でもやれるかも、……と立候補させていただいたしだいでした。

ただ、皆さまの大切な会費をお預かりしての役ですから、心して勤めさせていただきます。ご指導くださいませ。

実は今の私の悩みは「収入」の部を、どうしたら増やすことができるか――新入会員をたくさん迎えるための妙案はないものか――ということです。

以前は、入会とともに年金の勧誘も必要で、その分、重たい気持ちがありましたが、年金がやめになっただけ、身軽なかんじです。

この上は、各地で簡単な勉強会と親睦を兼ねた、当日会費千円くらいのプチ女医会を、製薬会社数社とタイアップし、二ヵ月に一回くらい、顔を合わせていると、だんだん気心が判り、日本女医会のイベントにも参加してもらえば、正会員にもなっていただけるのではないか……などと考えていますがいかがでしょう。

ご意見、お聞かせください。

各部の抱負

庶務部

清水洋子

新体制の庶務部は、本部のお膝元東京で橋本会長をたすけ、精力的に活動をされている石原幸子副会長をトップに、同じく東京でいざという時は敏速に対応して下さる庶務のエキスパート鹿田儀子先生、事業部から移られた久田タカ先生、新任の山本蒔子先生（宮城）と私の五名でスタートいたしました。

庶務の仕事の中でもっとも重要で常におろそかに出来ない課題は、会員の増強と女医会活動の活性化にあることに変わりはありません。ただ、その目標達成のために何をなすべきかであります。まず、理事会が日常行っている会議の準備、進行、総括（理事会、総会、評議員会）、それに各部の計画した事業がスムースに進展するための横の橋渡し、そして会員の現状把握に欠かせない冠婚葬祭、名簿作り（その多くが事務局員の手を借りておりますが）、その他突発的に発生する災害への援助等々、実に多岐にわたります。

今期日本女医会の最大のイベントの一つとなるのは、2002年の創立百周年記念事業であり、もう一つは2004年国際女医会議日本誘致―開催であり、そのための準備活動が中心となると思われます。前者はすでに会長を中心に準備委員会が6月に正式に発足し、後者に関しても事業部担当でナショナルコーディネーターでもある平敷先生を通しJTBと交渉を開始するなど、それぞれに動き始めております。また女医の環境整備小委員会も、委員を女性医師にしぼり（他職種の場合はあくまでもゲスト）女医会の主体性を守り、一方ではテーマ別に役割分担を行って活動しやすくするなど、昨年度より一段と組織も強化されて参りまし

吉岡弥生賞推せんについて

平成12年　吉岡弥生賞　授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、本年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

一、自筆履歴書
二、業績
　イ　医学に貢献した現会員。
　ロ　社会に貢献した現会員。
三、推せん理由

た。

庶務の務めはこれらの組織（委員会）の一員として役割を果たすとともに前にも述べた通り、それぞれの間の繋ぎや潤滑油となる事だと思います。

最後になりましたが、現在庶務部が主体となって取組んでいるのが全国ブロック別懇談会と支部長会議です。私たちは全国のできるだけ多くの支部長先生方の声に耳を傾け、今会員が女医会に何を望んでいるのか、どうすれば若い女医にも魅力的な会となり、さらに多くの女医の参加を得ることができるかを知る糸口にしたいと考えております。今後とも会員諸先生方のご協力を心からお待ちしております。

会計部

青井禮子

今期、会計担当は橋川副会長のもと、三期目になる川田理事と、私青井と新進気鋭の森川理事の三名です。

公正、正確、迅速をモットーに、会計処理させて頂きたいと存じております。公益法人会計では、事業計画に則って立案し、総会においてご承認頂いた予算に従って経理することとなっておりますので、おのずとその裁量の範囲は定っております。

しかしながら今期は創立百周年記念式典と、その記念事業が企画されておりまして、会計といたしましては特別会計を組ませて頂き、正確に分離し経理してゆきたいと思っておりますが、準備段階では臨機応変に取り組まねばならない部分もあろうかと苦慮しております。

さらに女性医師増加の中で、その業務、生活、社会全般にわたる環境の整備を目指しての「環境整備小委員会」の活動や、何にも増して会員増強活動への対応には柔軟な配慮が必要かと考えております。

前期は、金融危機にあって皆様の資産をお守りする意味で今までの本会の年金を一時的に廃止し、所定の率をもちまして給付を完了させて頂きました。今後、金融情勢の回復を待って新たな制度を立ちあげてゆかねばならないとも存じますが、取りあえず冬の時期を凌いだと存じております。

節約につとめながら、力を合せてよりよい会運営の明日に向けて、努力してゆく所存でございますので、会員の皆様のますますのご支援よろしくお願いいたします。

学術部

澤口彰子

このたび、学術部担当の理事に再選されまして、大変光栄に存じます。新たに学術部担当となられた内潟安子理事、山本纐子理事のお二人と力を合わせて、従来の伝統を踏襲しつつ新しいアイディアを取り入れて学術部を担当していきたいと考えております。

学術部では研究助成を引き続き行い、多くの先生方の研究、教育、実務等の力の増強に役立てていただきたいと考えております。また、吉岡弥生賞候補者も本部までご推薦ください。

昨今、医学部における女子学生の比率は年々増加しており、その比率は40％になろうとしていますが、卒業時の選択分野での男女の差別に悩む学生も多く見受けられます。

平成12年6月3日の朝日新聞「ひととき欄」には、外科医を志望する女子学生の「外科医は出産はダメ？」という切実な投稿がのっておりました。学術講演にこのような学生からのテーマもとり入れ、学生が参加するシンポジウムを開催し、広く社会にアピールすることもよいかと考えております。

今年も、セミナーやワークショップを東京だけでなく、地方でも開催したいと思っております。教育機関に勤務される先生方には、積極的にご講演に参加していただきたく願っております。地方の評議員の先生方のご立案による学術講演会も考えており、この場合は学術部が共催の形をとることになります。また、学術部では可能な先生方のリストを作成したいと思っております。

昨秋の学術講演会でとりあげた「女医の目と心で護ろう子供たち」では、国公私立八十校の女子医学生（一部看護学生）にもPRしました。医学部だけでなく、看護学部の学生の方々の参加もあり好評でした。女子医学生や若い女医の方々が「魅力的、かつ参加してよかった」と思うようなセミナー・ワークショップを通して、女医会の存在を滲透していきたいと考えております。

涉外部

田中蘭子

5月20日の総会で承認を受けて力不足を恥じながら、私としては四期目となる理事をお受けし、二度目の涉外の役を仰せつかりました。

振り返って見ると、ここ数年間、男女平等理念に基づく男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などが国会で可決され、女性の社会進出はずい分と進んだように見えますが、先日の衆議院選挙では、四百八十議席中、女性議員は三十八名、一割にも満たない結果となりました。未だ道遠しの感であります。

女医会も医師の世界にのみ留まらず、各種の女性団体との連携を密にして、さらに政府をはじめとする各

荻野吟子賞推せんについて

平成12年　荻野吟子賞　授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、本年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

界への働きかけをしなければならないと思います。渉外部としては、そのための情報収集、そして女医会としてのアピールの方法を考えねばならないと思っております。情報の提供、ご提言、ご忠告をお願い申しあげます。

事業部

平敷淳子

石原副会長のもと丸茂昌子、吉崎喜美子、村田郁、平敷淳子の四名の理事で事業部をおあずかりいたすことになりました。

行動目標として、従来からの、①年二回の公開講演会、②荻野吟子賞、地域功労賞、③地域医療奉仕活動への助成、④月刊「いきいき」への健康記事掲載、⑤講習会等の事業実施、⑥バザー、親睦活動による事業に加え、⑦災害、救急時の行動の体系化、⑧新事業の発掘、⑨百周年記念式典にむけての活動をあげております。

それらの方略として、①公開講演会の規約作成。年度はじめに各支部長を通じての応募。開催にあたっての支援の多様化。②と③については従来通り会員、支部長、理事からの推薦。④出版社、風土社との間での覚え書交換と事務処理の迅速化。⑤パソコン教室の計画等の迅速な公開と広報活動。

E-mailによる会員間の意見交流やhome pageの活用による幅の広い事業活動を展開していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

広報部

大坪公子

広報部は橋本薬子会長の指導のもとに、渉外部から移られたベテランの松井ひろみ理事と、新しく理事になられた神奈川の山崎康子理事と、前期より引き継いだ大坪公子が担当することになりました。

広報部の主な仕事は、年四回発行する日本女医会誌に、女医会が行うさまざまな活動を記録し、分かりやすく報告することにあります。会誌を読めば、女医会の活動全体が理解できるように気をつけて編集しています。会誌を一回発行するにあたり、割り付け編集会議と校正会議の少なくとも二回の会議が必要です。

次に日本女医会誌は、会員相互の理解を深めるのに役立つよう努めています。広く会員の皆様の活動を紹介し、よく知っていただく事により、お互いを理解し、親しみあい、楽しい女医会であるように願っています。

またこの会誌を通じて、広く社会の人々に女医会の存在をアピールできればよいと考えています。

百周年記念史の発行は、広報部が中心になり仕事を進めていくことになりました。2002年5月発行を目指して、この大きな事業に取り組みはじめたところです。百年の歴史をまとめるのは大変なことです。皆様どうぞご協力下さい。いろいろな古い情報をお寄せ下さい。特に古い写真をお持ちの方は、本部にお貸しいただきたくお願い申しあげます。読みやすく、内容の豊かな百年史にしたいとはりきっています。どうぞよろしくお願い申しあげます。

長い間広報部の仕事をしてくださり、このたびご勇退されました佐々木和子先生に心から感謝申しあげます。

お願い

会員名簿作成のため、住所、電話番号の変更、改姓等、またEメールのアドレスがありましたら、至急、ハガキで事務局までお知らせください。

庶務部

第21回学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

一、助成の趣旨
医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額
一件三十～五十万円（三件）

三、申込手続
(1)応募資格
入会継続三年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ（ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること）

(2)助成期間
一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。

(3)応募方法
本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。
一通を提出（用紙は事務局へ請求のこと）

(4)申込期間
平成十二年十二月二十五日(月)必着

(5)選考および発表方法
選考委員会において選考の上、平成十三年二月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6)助成金の贈呈
平成十三年五月開催の日本女医会総会の席上。

(7)受賞者の本会に対する義務
平成十四年三月末日までに研究経過報告（B5原稿用紙三枚）と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8)送り先
日本女医会本部　〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二―八―七
電話　〇三―三四九八―〇五七一

内覧・体験入居随時受付

サクラビア VIA 成城

高齢者用集合住宅　介護付終身利用型

セコムと森ビルが提唱する
60歳からの快適と安心の日々

レストラン
ヘルシーな特別料理から本格グルメ料理まで楽しめる幅広いメニュー

クリニック
24時間365日
医師と看護婦が
常駐する安心感

サロン
自由に使える
くつろぎの
スペース

お問い合わせ先は…
03-3789-2111
サクラビア成城までお気軽にどうぞ
〒157-8566 東京都世田谷区成城8-22-1

サクラビア成城のご見学と体験入居のご案内

サクラビア成城では、いつでも館内のご見学と体験入居を受け付けております。ご入居をお考えの皆様方に、サクラビア成城の素晴らしさを実際にご体験していただけます。

〔ご見学〕　随時受け付けております。
〔体験入居〕　ホテルにお泊まりになる感覚でお気軽にお試しください。60才以上でご入居をご検討される方が対象となります。
■費用　お一人様　一泊　5，000円（消費税別途）
お食事代、電話などのご利用料金は別途申し受けます。

ご見学と体験入居をご希望の方は、上記のお問い合わせ先までお電話にてお申し込みください。

限定居室特別価格のご案内
（平成12年7月1日から平成12年9月30日まで）
（15年間全額償却システム）

■Aタイプ　2階　207号室
68．37㎡（20．68坪）
入居金金額　1億3，000万円

■Bzタイプ　1階　114号室
60．21㎡（18．21坪）
入居金金額　1億1，500万円
このほかにも、より面積の広い居室が数室ございます。

■Dタイプ　92．34㎡（27．93坪）
入居金金額　1億9，408万円から

新理事に就任して

東女医学内支部　内潟安子

昭和56年に医学部大学院を卒業するころ、日本女医会があること、この女医会に研究助成があることをはじめて知りました。しかし田舎の大学にいます身なれば、自分なんか応募していいものやらどうすればいいのやらと気後れしてそのままになってしまい、日本女医会の存在も記憶のかなたにいってしまっておりました。

縁あって東京女子医科大学糖尿病センターに職を得、前所長の大森安恵教授に引き立てていただき、念願(!)の研究助成をいただくことができましたのが、平成4年でした。総会に出席し、錚々たる会員の皆様とお会いしました時、これまでの日本の医療に果たした女医の役割とその偉大な業績に感服いたしました。私も女医のひとり、会員のひとりであることに誇りを覚えました。

このたび、日本女医会の理事という大役をお引き受けすることとなりました。あこがれの日本女医会、偉大な歴史のある日本女医会の新理事として、私のような若輩ものがお役にたてるかどうか不安ではありますが、橋本葉子会長のもと、日本女医会をもり立ててせいいっぱいがんばりますので、なにとぞよろしくお願い申しあげます。

新理事に就任して

練馬支部　角田由美子

子育てが終り、親を見送り、借金は返し、仕事は少し暇になり、とりあえず健康といった状態で、さてこれから、あれもこれもと遊びの計画を練っていた矢先、計らずしも理事にご推薦いただきましてそのメンバーに加えていただきました。

女医としては四十年近いキャリアがありますが、日本女医会員としては日が浅く、支部長を一期務めただけの私に果たしてこの大役が務まるかどうか不安です。

先日、第1回の理事会に出席しました。そこでは、私が今まで非会員で過ごした長い年月が悔まれるような、すばらしい活躍がなされていました。翌日開かれた「女医の環境整備小委員会」では、子育て支援の話から撰択的夫婦別姓についてなど、さまざまな問題が提案され、今われわれにできることはと真剣に討議されました。

これらの会の熱気を、どのようにしたら皆さまにお伝えできるかと今考えているところです。私のまわりには日本女医会の存在すらご存知ない多くの女性医師がいらっしゃいます。その方たちと、会の活動とのギャップの大きさに驚き、一人でも多くの方に会のことを、そしてその多岐にわたる活動のことを知っていただき、ぜひ参加していただくようにつとめるつもりです。

理事会の中で私は渉外部に席を置くことになりました。早速国連NGO国内婦人委員会総会への出席要請がありました。会長の橋本先生がご出席くださいましたが、私としてはのほほんと過ごした今までの人生を反省し、諸先生方のように社会に眼を向けた生活をしなければと考えています。

急に違う環境の中に飛び込んで、かなり緊張しているのですが、少し

第25回 国際女医会議 のご案内

ナショナル・コーディネーター
平敷淳子

第25回国際女医会議は2001年オーストラリアのシドニーで4月19日から23日までの会期で開催されます。

テーマは多様な文化圏での女性の健康（Women's Health in a Multicultural World）

テーマはさらに細分化され、

1．習慣や慣習の実態：政治的意志決定と女性の地位（customs and traditional practices; political will and the status of women）
2．女性の精神衛生（women's mental health）
3．女性と子供に対する暴力（violence against women and children）
4．女性の健康に対する取り組み（access to women's health）
　a. 土着の健康法（indigenous health）
　b. 性と生殖に関する女性の権利（women's rights in sexual and reproductive health）
　c. 母子保健（maternal health）
　d. 女性と加齢（women and aging）
　e. 他分野とのかかわり（liaison with other sectors）
　f. 予防医学（prevention strategies）
5．研究や政策での性別に関わること（gender in research and policy）
6．個人的あるいは職業的な発展について（personal and professional development）
7．その他（other topics）

抄録締めきりは2000年11月30日
登録締めきりは2001年1月31日
会場は、シドニー　ヒルトン　ホテル
登録費は 825オーストラリア　ドル

登録費には、4月19日のウエルカムカクテルパーティ、午前午後のお茶、ランチ、ワークショップ、講演会場への移動費を含みます。4月22日の晩餐会費用（100ドル）は含みません。

国際女医会議で用意されたツアーもたくさん組まれています。

日本女医会も団体をくみ、ツアーなどの便宜もおはかりする予定です。

日本女医会事務局にご案内や抄録用紙も用意してあります。

国際女医会加盟国（1999.12.現在）

1 ARGENTINA	22 KOREA
2 AUSTRALIA	23 MEXICO
3 AUSTRIA	24 NEW ZEALAND
4 BELGIUM	25 NICARAGUA
5 BOLIVIA	26 NIGERIA
6 BRAZIL	27 NORWAY
7 CAMEROON	28 PANAMA
8 CANADA	29 PERU
9 COLOMBIA	30 PHILIPPINES
10 DENMARK	31 POLAND
11 EGYPT	32 ROMANIA
12 FINLAND	33 SIERRA LEONE
13 FRANCE	34 SOUTH AFRICA
14 GERMANY	35 SWEDEN
15 GHINA	36 SWITZERLAND
16 HUNGARY	37 TAIWAN R.O.C.
17 INDIA	38 THAILAND
18 ISRAEL	39 UGANDA
19 ITALY	40 UNITED KINGDOM
20 JAPAN	41 U.S.A.
21 KENYA	42 ZAMBIA

国際女医会議出席ツアーのご案内

〈阪急交通社扱〉

1．会議出席コース
旅行期間：2001年4月17日(火)～24日(火)　8日間
旅　　程：東京/シドニー/東京
旅行代金：約258,000円

2．会議出席とヘイマン島
旅行期間：2001年4月17日(火)～26日(木)　10日間
旅　　程：東京/シドニー/ヘイマン島/(ケアンズ)/東京
旅行代金：約418,000円

3．会議出席とパース、メルボルン
旅行期間：2001年4月17日(火)～29日(日)　13日間
旅　　程：東京/シドニー/パース/メルボルン/東京
旅行代金：約548,000円

価格については変更がある場合もございますので予めお断り致します。

●旅行主催：㈱阪急交通社
〒105-0004 東京都港区新橋3 3 9 TEL：03-3508-0161
担当：新橋営業第1課 宮崎、中村　FAX：03-3508-0321

〈ＪＴＢ扱〉

(1) 会議出席コース
旅行期間：2001年4月17日(月)～4月24日(月)〈8日間〉
旅　　程：東京/シドニー/東京
旅行代金：約200,000円

(2) 会議出席とオーストラリアの大自然周遊コース
旅行期間：2001年4月14日(土)～4月28日(土)〈15日間〉
旅　　程：東京/パース/エアーズロック/シドニー/メルボルン/東京
旅行代金：約600,000円

(3) 会議出席と列車利用オーストラリア東海岸縦断コース
旅行期間：2001年4月13日(金)～4月25日(水)〈13日間〉
旅　　程：東京/ケアンズ/ブロサパイン/ブリスベン/ゴールドコースト/シドニー/東京
旅行代金：約500,000円

ＪＴＢ海外旅行虎ノ門支店
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1－26－5　虎ノ門17森ビル7階
TEL：03-3504-3706　FAX：03-3504-3671
担当：小柳・渡辺

ずつ自分のできるところから会のために何かお役に立てることがあればと、諸先輩方にいろいろお教えいただいて努力するつもりです。しかし、生来楽天家の私はこの三年間を楽しみたいとも考えています。

新理事として

足立支部　森川由紀子

東京女子医大を卒業して、三十六年が経ちました。

卒後すぐに、母校小児科の医局に入り、女子医大第二病院に移籍、昭和54年に開業後、あっという間の二十余年が過ぎてしまいました。

小児科の臨床一筋に生きて来たといえば、聞こえはよいのですが、気が付けば、医学のこと以外何も知らない自分に気付き、落ち込むことしきりの昨今です。

21世紀を目前にして、世の中の変化は著しく、人の考え方も大きく変わり、日常接している親御さん方とも、時に話が通じ合わなくなるようがします。

そのような時勢において、少子化への対応から、保育園の問題、病後児保育の必要性、また教育の面でも登校困難児や青少年の暴力行為の増加なども幼小児期から小児科医の関与が大切といわれ始めております。

例を挙げれば限りがないほどの問題が山積し社会が女性医師の活躍を心待ちにしているように感じます。

このような状況にあって、日本女医会の存在は貴重であり、かつその存在価値はますます高まることでしょう。

女医会の理事として私のように不勉強な人間が、お役に立てることがあるのだろうかと考えてしまいますが、理事会に出席させていただき先輩の先生方のご活躍を目の当たりにさせていただいて、およばずながらできる範囲でがんばらせていただこうと思いました。

至らないことが多いと思いますが諸先生方どうぞよろしくご指導下さいますようお願い申しあげます。

計らずも二年後は創立百周年を迎えるそのときに、理事を務めさせていただけることを光栄に思っております。

至りませんが、どうかよろしくご指導ください。

●新役員各部担当●

	理事	副会長	会長
事業	平敷　淳子 丸茂　畠子 村田　郁 吉崎喜美子	石原　幸子	橋本　葉子
庶務	鹿田　儀子 清水　洋子 久田　タカ 山本　蒔子		
広報	大坪　公子 松井ひろみ 山崎　康子	橋川ふさ子	
会計	青井　禮子 川田喜代子 森川由紀子		
学術	内潟　安子 澤口　彰子 山本　纐子	加藤　竺子	
渉外	田中　蘭子 角田由美子 山崎　トヨ		
監事	野澤　良美・松本　文絵		
National Coordinator	平敷　淳子		

新理事として

栃木支部　山崎トヨ

このたび、歴史と伝統ある日本女医会の理事という大任に、思いもかけず関わらせていただくことになり、身に余ることと受け止めております。もとより浅学非才で未熟者ですので不安な気持ちで一杯でございますが、たいへんお世話になっている大切な、そして大好きな日本女医会ですので、一生懸命勉強させていただきたいと思っております。涉外の担当をさせていただきます。

百年の歴史をもつ日本女医会は今日まで進歩発展し、女医の数も激増している昨今ですが、日本女医会員が減少している現状はどう考えるべきでしょうか。「今の時代女医と男医の別はない」との考えも一理あると思います。そして女医会の存在すら知らない女医もいるのです。しかしたいへんなご苦労をされて道を切り開き残してくれた先人女医に感謝をし、若い女医が持てる能力を十二分に発揮できるよう多くの女医が力を合わせることも必要かと思います。

そして「数は力でもある」とも思います。日本女医会が今激増しつつある女医の「拠り所」になれるなら日本女医会の発展、女医の幸福へもつながるものと思います。

今まで、夫と三人の子どもたちには申しわけないほどに自分の好きな「医の道」を三十年間（大学医局に十年、その後開業二十年）夢中で走ってきました。

これからは、少し考えながら少し楽しみながら「医の道」を続けたいと思っています。

諸先輩の先生方のご指導をいただきながらまじめに勉強させていただき、微力ながらお役に立ちたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申しあげます。

新理事として

神奈川支部　山崎康子

日本女医会の理事に承認され広報を担当することになりました。

私が女医会に入会するきっかけになったのはベルリンで開催された国際女医会に出席したいためでした。確たる目的を持って行ったのではなく、東と西に分断されていたベルリンを自分の目でたしかめてみたかったのです。

会議の席では、山崎倫子先生のご活躍がつよく印象に残っております。また家庭へお招きいただき、他国の女医の方たちと同席しながら、言葉が分からず、もどかしい思いをしたり、その暮らしぶりがとても質素であったことや多数の方たちが英語で何とか気持を通じ合っていたことなどを思い出します。

当時とは比較にならぬほど国の内外のコミュニケーションの手段は多様化されています。情報はわれわれのまわりに山積みされているのですが、自らが積極的に取りこもうとしなければ大切な情報であってもどんどん通り過ぎてしまうでしょう。また取りこみについても自らの選択を決断しなければならないと思います。広く世界に目を向ける必要と日常の小さな出来事に真剣に対処する大切さを痛感しております。

新理事に就任して

愛知支部　山本纐子

理事会に初めて出席いたしました。日本女医会の理事という大役をお引き受けすることになりました。佐藤千代子会長の時代に学術部で一期秀れた先輩、後輩の会員と時間を共務めさせていただいたことがあり、にいたしました。医師になって四十現会長の橋本先生や平敷先生に従っ年になりますが、いまだかつて知て、ひたすら勉強いたしておりまりますが、いまだかつて知なかったエキサイティングな体験をした。全くお役に立たず、大学の方のさせていただきました。微力ではあ仕事が忙しくなりましたので、中断りますが会員の皆様やこれから会員させていただいておりましたが、最になってくださる方々のために仕事近の女子学生の増加と今後、この学をさせていただくつもりです。よろ生たちがさまざまな問題に遭遇しくお願い申しあげます。

ることを考えますと私を支えてくださった先輩の先生方のような役割をする時期にきているのではないかと思い、再度、この役に挑戦する決心をいたしました。

私は愛知県支部に所属しており、現在は藤田保健衛生大学神経内科を預かっておりますが、医局員の約半数は女性で、彼女らが抱えている問題は多く、その対策はなかなか容易ではありません。しかも直面している問題は常に変化しており、適切な時期に適切な助言や援助が必要と思われます。女医会の取り組む問題は多く、前途は遼遠で、多難でしょうが、一歩一歩前へ進めていかなくてはと思います。

しかし、私は女医会の会務は不慣れですので、少し教えていただいた学術部に所属させて頂き、澤口先生、内潟先生とご一緒に活動することになりました。早速、平敷先生が下準備をしてくださった学術講演会が、10月1日の日曜日に予定されており、オーストラリアのドナースタイン先

地域医療奉仕活動に対する助成のご案内

平成12年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申しあげます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行なっている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締切は平成12年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

（社）日本女医会　事業部

〈健康雑誌月刊「いきいき」執筆者募集〉

日本女医会の理事や会員に執筆していただいております一般市民を対象とした健康誌月刊「いきいき」の月間テーマがきまりました。テーマは大要で内容によりサブタイトルをおつけくださって結構です。

号数	テーマ	締めきり
2001年1月	冷えについて	2000年10月1日
2001年2月	睡眠について	2000年11月1日
2001年4月	身体測定、健康診断結果	2000年12月15日
2001年5月	五月病	2001年2月1日
2001年7月	子供の伝染病	2001年4月1日
2001年8月	エアコンの弊害	2001年5月1日

＊原稿は400字原稿用紙4枚分です。ワープロでのご投稿歓迎です。
＊ご希望をいただいた後、日本女医会事業部からお手紙にてご依頼いたします。
＊「いきいき」のサンプルは女医会事務局にございます。

●お問い合わせ　事務局　事業部

新理事に就任して

宮城支部　山本蒔子

2000年という記念すべき年に宮城支部の推薦を受けて、日本女医会の理事をお引き受けすることになり、大変光栄に存じます。

私は1965年に、東北大学医学部を卒業し、育児、研究、診療と、多くの女性医師と同様に、一人何役かをこなしてきました。約三十年前大学院を修了したばかりのころ大学病院に保育園を作りました。当時看護職の方たちといっしょに活動をしました。残念ながら、そのころは女医会のことは知りませんでした。私が女医会活動を始めましたのは、子育てが終ったころでした。

2000年になった現在も、女性医師を取りかこむ状況はあまりよくなっていないと感じられてなりません。母校の東北大学医学部では、1998年にようやく、基礎の発生学に、初めての女性教授が誕生しました。医師会を見ても、仙台市医師会には、女性理事は一人のみで、宮城県医師会には女性理事はおりません。

新たに誕生する医師の三割を占めるまでになった若い女性医師たちが、21世紀には、もっと活躍することが期待されます。日本女医会はそうした若い女性医師を支援していく使命があると思います。

微力ですが、理事として、女性医師が力を発揮できる社会を作るために働きます。ご協力をお願いいたします。

えうるか、はなはだ心もとないことですが、橋本会長を始め、他の理事、会員の先生方のご指導のもとに、一生懸命努めますので、よろしくお願い申しあげます。

第45回定時総会開く

新執行部発足、多彩な事業を決定

平成12年5月20日京王プラザホテルで第45回定時総会が開催されました。

橋本葉子会長挨拶の後、会務報告および事業報告が行われました。平成11年度特別会計報告、ナショナル・コーディネーター報告が行われました。

特別講演は、日本医師会常任理事青柳　俊先生による「社会が求める医療をめざして」という題で講演があり、学ぶところが多い内容でありました。

議事に移り、第1号議案、平成11年度一般会計収支計算、剰余金処分案が、審議、可決されました。

第2号議案、平成12年度事業計画案が審議、可決され、第3号議案、平成12年度一般会計収支予算案も審議、可決されました。

会員減少に伴う収入減少により、厳しい予算となっております。

第4号議案2004年国際女医会議立候補の件は、橋本会長の次のような説明がありました。

第26回国際女医会議・日本開催に向けて―この国際会議は日本女医会創立百周年記念事業の一環として考えられているものです。第25回国際女医会議は2001（平成13）年4月19日（木）～23日（月）まで、オーストラリア　シドニーのヒルトンホテルを主会場に開催されます。主題は「Women's Health ia a Multicultural World」ですが、まだサーキュラーが届きません。その総会の席上で、第26回の国際女医会議開催国が決定されますので、現在は立候補に向けての準備をしております。日本での国際女医会議の会期は2004年7月28日（水）夜　ウエルカム・パーティ、29日、30日、31日、8月1日(日)の午後まで総会を含めた学術発表、夕方フェアウエル・パーティ、会場は京王プラザホテルを予定しております。主題は仮題ですが、「Medicine in a New Lifestyle-education, research and Practice ニューライフスタイルにおける医療―教育、研究、診療」、若い方も発表しやすいような項目がいくつか、現在考えられております。できるだけ多くのかたにシドニーにお出かけいただき、総会にご出席をお願いしたいと存じます。

審議、可決されました。

第5号議案、百周年記念事業の件は橋本会長により次のような説明がなされました。

創立百周年記念事業―2002年に日本女医会創立百周年を迎えますので、2002年5月18日（土）京王プラザホテルにおいて総会を兼ねた式典・祝賀会を予定いたしました。また、百年史の発行も予定しております。今までの日本女医会の歴史を辿ってみますと、残っている資料が非常に少ないことに驚いております。この機会にできるだけの資料を集めて、後年に残しておきたいと考えております。日本女医会のロゴマークも二、三の応募がございましたので、基本的には選ばせていただきましたが、ただ今プロの方に見ていただいております。また、昨年要望書を提出いたしました吉岡彌生先生の記念切手は、日本女子大、津田塾大と東京女子医大の三校創立百周年を記念し、「私立の女子高等教育の創始百周年」として、本年9月22日(金)の発行が決定いたしました。

審議・可決されました。

第6号議案、次期（46回）および次々期（47回）総会開催地に関する件は、橋本会長より次のような説明がありました。

百周年記念事業などが入りますので、向こう数年間の総会開催地予定をご審議いただきたいと存じます。

次期（第46回）総会開催地―2001（平成13）年5月19日（土）佐賀支部（佐賀県）。これは昨年決定しておりますので、千住冬子支部長先生、緒方文江先生はじめ支部の皆さまよろしくお願い申しあげます。

次次期（第47回）総会開催地―2002（平成14）年5月18日（土）東京（京王プラザホテル）。百周年記念祝賀会を兼ねます。

次次次期（第48回）総会開催地―2003（平成15）年5月17日（土）東京。

審議・可決されました。

第7号議案、新役員に関する件、橋本会長の説明は次の通りでありました。

役員の選挙について―皆様のお手元に配布いたしました立候補者の内、佐々木和子先生が諸般のご事情によりまして、立候補をご辞退（5月8日）なさいましたので、理事の立候補は二四名、監事は二名で定員内ということになりました。日本女医会定款施行規則により、理事も監事も総会において皆さまのご承認が必要になります。立候補者をご承認いただければ、後程会長、副会長を理事の互選で選任させていただきます。

役員選出に関しまして、会長が役員改選の年次においてのみ九十日前に選挙管理委員会を設置すること、選挙管理委員は五名以上、九名以下、選挙管理委員長は会長指名となっておりますので、次の八名の先生にお願いいたしました。

選挙管理委員長
二村　芙美江（港区）
選挙管理委員
秋葉　則子（千葉）
青井　禮子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医会議記念事業基金会計
年金会計
以上について配布ずみの資料にもとづき報告
三、ナショナルコーディネーター報告　平敷　淳子

総会特別講演
「社会が求める医療をめざして」
日本医師会常任理事　青柳俊先生

議長団選出
斎藤歌子、佐藤秩子、前田慶子
（議長団、議長団席に着席）

議事録署名人選出
堀口　文、脇田昌子

議事
第1号議案
(1)平成11年度一般会計収支計算書案　栗原　久子
配布ずみの資料にもとづき報告―
原案どおり可決
(2)剰余金処分案　栗原　久子
次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決
会計監査報告　中濱　昌子
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第2号議案
平成12年度事業計画案
・庶務部　加藤　竺子
会員増加推進
吉岡弥生賞
・学術部　加藤　竺子
研究助成
学術講演研修会を年数回開催
・事業部　加藤　竺子
年二回公開講演会の実施
荻野吟子賞、地域功労賞
地域医療奉仕活動への助成
社会保険新報社への原稿協力について、月刊「いきいき」に健康記事掲載
講習会等の事業実施
・渉外部　加藤　竺子
国内各団体との交流
国際交流
他団体との公開講演会の開催
国連NGO国内婦人委員会として活動
女性の異業種団体との交流
・広報部　加藤　竺子
機関紙の発行
・各種委員会　加藤　竺子
女医の環境整備小委員会
百周年記念事業委員会
以上原案どおり可決

第3号議案
平成12年度一般会計収支予算案　川田喜代子
原案どおり可決

第4号議案
2004年第26回国際女医会議立候補の件　橋本　葉子
開催地：東京
会期：2004年7月28日（水）～8月1日（日）
会場：京王プラザホテル
テーマ：ニューライフスタイルにおける医療―教育、研究、診療
原案どおり可決

第5号議案　橋本　葉子

第45回日本女医会定時総会

■とき・平成12年5月20日
■ところ・東京・京王プラザホテル

定時総会議事録

日時：平成12年5月20日(土)
場所：京王プラザホテル（東京都新宿区西新宿2-2-1）
午後1時7分開会
司会　鹿田　儀子
社団法人日本女医会総会開催に際し
会員数　二一二〇名
出席数　一三九名
記名委任数　六九〇名
白紙委任数　三一九名

以上のとおり日本女医会定款第27条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり開会を宣す。

会長挨拶　橋本　葉子

物故者への黙禱
平成11年度物故会員に黙禱

報告
一、会務および事業報告　清水洋子
配布ずみの資料にもとづき報告
二、平成11年度特別会計報告

新医学用語豆辞典

夢の光学顕微鏡―単一分子が光源

ナノテクノロジーとは10^{-9}m(nm)を取り扱う技術の総称である。走査電子顕微鏡(SEM)や透過型電子顕微鏡(TEM)はその代表的なものであるが、最近、試料表面の原子レベルの凹凸や、構造を見る走査トンネル顕微鏡(STM)やその応用である原子間力顕微鏡(AFM)が出現し、DNAの二重らせん構造が見えるまでになっている。波長より小さい物理的開口部を設け、近接場で対象に光を当てると、光学顕微鏡で回折限界を超える観測が可能となっている。この物理的開口部の代わりに、ナノスコーピックな発光源(単一分子を点状の照射源とする)を用い、蛍光励起分光法（fluorescence excitation spectroscopy)と剪断力顕微鏡(shear-force microscope)を組み合わせることによって、光学顕微鏡で分子レベルの分解能を達成できる可能性が出てきた。また、ナノメータスケールの現象（たとえば共鳴エネルギー移動）について、優れた横方向と軸方向の空間分解能を用いて、制御された研究がより促進するものと思われる。

稲生　襄（神奈川）
甲子　万里子（墨田区）
斉藤　文子（世田谷区）
深井　登起子（埼玉）
森田　和子（神奈川）
山本　みどり（千葉）

新役員の互選による会長、副会長の選出の結果は次のとおりでありました。

理事互選の結果
会　長　橋本　葉子
副会長　石原　幸子
副会長　加藤　竺子
副会長　橋川　ふさ子

次に表彰が行われました。

1　吉岡弥生賞
山本　纁子先生（医学部門）
橋本美知子先生（社会部門）

2　学術助成金授与
安部由美子先生
白鳥　敬子先生
清島真理子先生

3　地域医療奉仕活動への助成
婦人と子供の健康を相談する会
佐藤　秩子先生（愛知支部）

にそれぞれ与えられました。

総会は予定通りスムーズに行われました。

百周年記念事業、2004年国際女医会議立候補の件の決定にみるように、大きな仕事がせまっており、前向きに一致団結した力強い総会でありました。

（広報部・大坪公子）

総会会長挨拶

会長　橋本葉子

木々の緑も深みを増して参りました。会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申しあげます。

本年は役員選挙の年でございますので、総会は東京で行うことになり、東京都支部連合の皆様にはひとかたならぬお骨折りを頂戴いたしました。厚く御礼申しあげます。また、遠方からもたくさんの会員にお集まりいただき、役員選挙も含めて1999年度の事業及び決算報告、2000年度の事業計画及び予算案などにつきましてご審議いただけますことを感謝申しあげます。

日本女医会の各担当部で行います事業や議案を除いたその他の活動等につきまして、順不同でございますが、簡単にご紹介いたします。

一、環境整備小委員会の活動：

「女性医師の働く環境と支援体制の整備拡充を求める要望書」を昨年4月に関係部署に提出し、昨年10月にこの要望書に対するアンケート調査を行いました。

この結果につきましては日本女医会誌161号（H12・1・25）に荒木薬子先生がご報告くださいましたのでそれをお読みいただくことと存じます。調査結果から、男女共同参画理念は共通認識となりつつあることは分かりましたが、育児・介護の社会支援のインフラが整っていないことも分かり、今後さらに環境整備に関して提言しなければならないとの認識を新たにしております。

具体的には　①大きな学会や集会のときの保育支援、②新エンゼルプランの支援、③育児期間における認定医・専門医等の単位の問題、選択的夫婦別姓の問題などがあがっております。

二、読売新聞社主催「医療功労賞」の推薦団体となりました。

医療功労賞に関しまして少し説明させていただきます。医療功労賞は離島や寒村、身体障害者施設など国内外の困難な環境の下で、長年にわたって住民の支えになってきた医療関係者を表彰することを目的にして、読売新聞社主催、厚生省・日本国際連合協会・日本テレビ放送網の後援、エーザイの協賛で毎年選考されているる賞で、「国内部門」と「国際部門」があります。国内部門はさらに地方

日本女医会創立百周年記念事業の件
・2002年5月18日（土）京王プラザホテルにおいて記念式典及び祝賀会を開催
・百年史刊行
・ロゴマークの決定
　原案どおり可決

第6号議案
次期および次々期総会開催地に関する件
・次期開催地（2001年5月19日（土））佐賀県
・次々期開催地（2002年5月18日（土））東京
　原案どおり可決

第7号議案
15条の規定により現役員任期満了にともない役員改選のため選挙管理委員を選出。
秋葉則子、稲生襄、甲子万里子、斉藤文子、二村芙美江、深井登起子、森田和子、山本みどり
・理事立候補者名（24名、五十音順）
青井禮子、石原幸子、内潟安子、大坪公子、加藤竺子、川田喜代子、澤口彰子、鹿田儀子、清水洋子、田中蘭子、角田由美子、橋川ふさ子、橋本葉子、久田タカ、平敷淳子、松井比呂美、丸茂畠子、村田郁、森川由紀子、山崎トヨ、山本繍子、吉崎喜美子
・監事立候補者名（2名、五十音順）
野澤良美、松本文絵
理事定数21～25名、監事定数2名のため定款施行規則23条により無投票当選となるとの報告。
以上承認

理事立候補者互選のため退室。
・選挙結果の発表
定款施行規則第15条にもとづき新役員の互選の結果、会長に橋本葉子、副会長に石原幸子、加藤竺子、橋川ふさ子が選任された。
会　長　橋本葉子
副会長　石原幸子、加藤竺子、橋川ふさ子
理　事　青井禮子、内潟安子、大坪公子、川田喜代子、澤口彰子、鹿田儀子、清水洋子、田中蘭子、角田由美子、久田タカ、平敷淳子、松井比呂美、丸茂畠子、村田郁、森川由紀子、山崎トヨ、山本繍子、吉崎喜美子
監　事　野澤良美、松本文絵
以上承認

表彰
(1)吉岡弥生賞受賞者
山本纁子、橋本美知子
(2)学術研究助成金授与者
安部由美子、白鳥敬子、清島真理子
(3)地域医療奉仕活動への助成
婦人と子供の健康を相談する会（愛知県支部）

閉会の辞　石原　幸子
午後5時15分閉会

総会における会長挨拶

推薦と中央推薦があり、中央推薦部門は複数県にまたがって広域な活動をしている人、もしくは全国の模範となる活動をしている人の中から、中央選考委員会が特に功績を認めた若干名を表彰することになっております。国内・地方推薦部門一五名以内、国内・中央推薦部門若干名、国際部門若干名に授与されることになっております。第27回（1998年度）は国際部門で須藤昭子先生（昨年日本女医会から荻野吟子賞を差し上げたハイチでご活躍の先生です）が受賞されました。1999年度から日本女医会も「国内・中央推薦部門」の推薦団体として承認されましたので、「第28回（1999年度）医療功労賞」国内・中央推薦部門に山崎倫子日本女医会名誉会長を推薦致しました。2月に厚生省で行われました中央選考委員会の厳正な最終審査の結果、3月8日に受賞者の発表があり、山崎先生に「医療功労賞国内・中央推薦部門」が授与されました。今年の中央推薦部門の受賞者は山崎先生お一人でございました。2000年3月17日（金）に帝国ホテルで表彰式があり、青井、松井、橋本三名の日本女医会理事及び中山日本女医会東京都支部連合会副会長が表彰式に出席いたしました。この功労賞には副賞が付いておりますが、山崎先生は全額を2002年の百周年記念事業基金にご寄付くださいました。改めて感謝申しあげます。

今後もできるだけ候補者を発掘し、推薦したいと考えております。申請締め切りは10月27日ごろでございますので、皆様の地域で該当する方がおられますときには、書類をたくさん必要としますので、遅くても8月末までに日本女医会宛ご推薦いただきたいと存じます。

三、リマ（ペルー）の記念病院支援について：日本人ペルー移住百周年記念事業の最大の事業は、記念病院の建設であります。そのソフト面、即ち、病院を管理運営するために必要な人材の養成または研修を支援するために、日本ペルー協会と何回か相談いたしました結果、「記念病院支援の会」を作ることになりました。会長は日本ペルー協会会長の新谷功氏がお引き受け下さることになりました。支援をして下さる個人会員の募集（一口五千円くらい）が始まると存じますので、その節はご協力のほどよろしくお願い申しあげます。必要な資金集めは支援の会にお願いして、日本女医会は日本での研修機関紹介や専門家のペルーへの派遣人事などの窓口としてお手伝いすることになります。

四、女性と仕事と未来館：労働省が建設しております未来館の支援：今年の初めから未来館の特別相談の仕事と未来館が開館し、いよいよ一つ「からだの健康相談」が始まりました。この特別相談員は日本女医会から推薦させていただいておりますが、一年ごとの契約だそうで、昨年お願いしました先生方は、3月で契約が切れてしまいました。今年は1999年度にお願いいたしました先生方にもう一年再契約をお願いいたしました。お願いいたしました先生方、どうぞよろしくお願い申しあげます。まだ、それほど相談件数は多くないようですが、徐々に増えるのではないかと思います。相談は面接で相談者一人に対し一時間、木曜日、17：00～20：00までとなっておりますので、都内または近郊の先生にお願いをしております。また、来年以降、この相談員をやってもよろしいとお考えの方は事務局までお申し

公開講演会開催依頼について

各支部におかれまして公開講演会を開催して頂き、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んで、公衆衛生活動にご参加くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申しあげます。

各支部から開催のお申し出があれば、資金、演者派遣などご希望に応じて、協力させていただきます。

事業部

目は以下の通りです。

I　平等・開発・平和に向けての「行動綱領」および「男女共同参画2000年プラン」の実現に向けて運動を進める。

II　核兵器廃絶とすべての軍備の完全撤廃に向けて国の内外に働きかける。

III　ILOの女性関係諸条約の早期批准と、勧告の実施促進とを政府に要望する。

IV　「国際人権規約」の完全実施を目指して運動を進める。

V　国連、国連関係諸機関への代表に婦人を加えるよう日本政府に要求、その実現につとめる。

①第三委員会（社会・人道・文化）へ国連総会政府代表代理を本会から派遣する。（だいぶ前に山崎倫子先生が三回連続して代表になられました。）

②国連、国連関係諸機関職員として日本婦人を採用するよう努力する。

③日本訪問の国連及び国連関係諸機関関係者と懇談の機会を持つ。（ヨ

越しいただければと存じます。主に産婦人科、小児科、神経精神科関係の相談に応じて欲しいとのことでございます。

五、国連NGO国内婦人委員会加入団体としての活動：国連NGO国内婦人委員会は、国際連合の経済社会理事会（Economic and Social Council）にNGO（Non-Governmental Organization）として認められている、国際的な組織の婦人団体に加入している日本の婦人団体により、国連関係の問題に協力するため、1957年に結成された委員会であります。現在、一〇団体（㈱大学婦人協会、日本汎太平洋東南アジア婦人協会、日本女性法律家協会、婦人国際平和自由連盟日本支部、日本婦人有権者同盟、財団法人日本キリスト教婦人矯風会、財団法人日本キリスト教女子青年会、（社）日本看護協会、日本BPW（Business and Professional Women's Club）連合会、（社）日本女医会）及び個人会員二〇名が参加しております。1999年度の活動項

ルダン・エジプトなど）

Ⅵ　国連におけるジェンダーの視点を主流とするために国連及び政府に働きかける。

六、日本医師会の役員参画：坪井会長が三選され、役員も決定されましたが、今回も残念ながら女性医師の参画はできませんでした。唯一、青井禮子日本女医会理事、東京都医師会理事が日本医師会代議員になられております。各種委員会の中には、未来医師会ビジョン委員会に　三名（澤昌子、鶴岡美果、中島和江）、医療関係者対策委員会に一名（青井禮子）、少子化対策委員会に一名（石原幸子）、日医医師賠償責任保険調査委員会に一名（横山和子）、医療安全対策委員会に一名（横山和子）、女性会員懇談会一一名（全員女性医師）、というほんの僅かの女性医師が委員として名を連ねているに過ぎません。

日本医師会の役員に女性医師の参画ができますよう、今後も働きかけをしたいと考えておりますが、地方医師会の役員参画から事は始まるようですので、皆様も積極的に医師会での活動をお願いしたいと存じます。

つい先日、都城市北諸県郡医師会会長に柳田喜美子先生がご就任なさったご挨拶状を頂きましたが、役員二一名中紅一点で会長ということでございました。せめて数名の女性理事のお名前が欲しかったところです。

七、国会への参画：出来れば女性医師に立候補していただきたいと思っております。赤松良子先生が代表のWIN WIN（Women In New World, International Network）という組織があり、女性候補者支援の募金ネットワークを作っております。ここから6月に予定されております衆議院選挙の第一次推薦候補が四名選ばれましたが、その中に水島広子先生（慶應義塾大学医学部精神神経科勤務）がおられます。まだお若い方で、日本女医会会員でないのが残念ですが、当選していただきたいと思います。また、山形からは鈴木祐子先生（東北ヒューマンネット21女性委員長）が立候補のご予定です。鈴木先生は日本女医会員です。当選を祈念しております。

以上、順不同でまとまりのないご紹介になってしまいましたが、今年度は年間の予定されております事業活動以外に、

①百周年記念事業

②働く女性のための環境整備

③男女共同参画の方策

④国際協力

などに力を注ぎたいと考えております。日本女医会がますます発展いたしますように本年も会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申しあげます。

各賞と研究助成

▼吉岡弥生賞（医学部門）を受賞して

愛知支部　山本纉子

幼い頃、立派な女性として深く脳裡に刻んだ御名を冠した賞を頂き、身に余る光栄と深謝しております。

また、愛知県支部長の佐藤秩子先生のご推挙や選考下さいました委員の先生方に感謝申しあげるとともに、ご期待に添うよう努力する覚悟を新たにいたしております。

私は大学紛争さなかの昭和44年に名古屋大学医学部を卒業し、名古屋第一赤十字病院で臨床研修を行いました。この間、考える暇も無く、右往左往する毎日でしたので、二年後の帰局に際し、慢性疾患が多く、悪性腫瘍の少ない神経内科を専攻することに決め、第一内科第四研究室に入れていただきました。この当時の神経疾患は「分からない、治らない」といわれ、神経内科を専攻する人は、変っているなどと揶揄されておりました。

ツムラ茨城工場（医療用漢方製剤専用工場）

ツムラは、医療用漢方製剤の
科学的研究を通じて、
21世紀に至る長寿社会に
貢献していきたいと願っております。

株式会社ツムラ
東京都千代田区二番町12-7　〒102-8422
電話(03)3221-0001

たが、私には診断の手順が推理的でおもしろく、先輩の先生たちについてn-ヘキサン中毒のフィールドワークや脳性麻痺の施設などを訪れて、いろいろご指導いただきました。

昭和51年、私がアメリカから帰国したころ、恩師の祖父江逸郎教授が脊髄小脳変性症の治療薬の開発に着手され、私も眼球運動に関する部分を担当することになり、臨床研究のおもしろさとたいへんさを学びました。この薬は後にヒルトニンとして上梓され、本疾患の唯一の治療薬となっております。分子生物学の発展と共に最近では「脳の十年」、さらに「21世紀は脳の時代」といわれ、神経内科の理解が深まるとともに、この科を専攻する医師が増え、女医も多くなって心強い限りです。

現在は、藤田保健衛生大学神経内科を預かり、良き臨床医の育成に努力して十余年がたち、大学院生と共に多くの領域の臨床研究を手がけてきました。残りの約十年はこれらの研究を深めるとともに、臨床的疑問を基礎的研究で少しでも明らかに出来るようがんばってみたいと思っております。

※吉岡弥生賞授賞者と授賞理由※

●医学に貢献した部門　山本　纉子

医学部卒業後、脊髄小脳変性症など神経内科学の研鑽を積み、異常眼球運動の定量化の方法を確立し、治療薬の薬効の評価を可能にした。更に、脳神経障害時の画像解析、特に眼球運動の機能的ＭＲＩの計画など、病態解明に多大な貢献をした。脳神経疾患に対する基礎的及び臨床的研究活動に対しての受賞。

●社会に貢献した部門　橋本美知子

医学部卒業後、四十数年間、公衆衛生学の研究・教育を通して、高齢者福祉・介護の先駆者的指導者として活躍し、更に衛生行政や市民の保健啓蒙に多大の貢献をした。この幅広い活動に対しての受賞。

▼吉岡弥生賞（社会部門）を受賞して

大阪第10支部　橋本美知子

このたび日本女医会吉岡弥生賞を頂戴いたしましたこと、厚くお礼申しあげます。橋本葉子会長を始め熱心にご推薦くださいました大阪支部川田喜代子理事、西嶋攝子前理事、推薦委員会の諸先生方に対しましても厚くお礼申しあげます。

受賞の対象は、「医学部卒業後四十数年間公衆衛生学の研究・教育を通して高齢者福祉・介護の先駆者的指導者として活躍し、衛生行政や市民の保健啓蒙に貢献してきたこと」です。このようなただ過分の御評価に対しまして、ただただ、恐縮の極みでございます。

関西医科大学公衆衛生学教室在籍中には、関西医大名誉教授の恩師東田敏夫先生のご指導のもと、結核死亡者の調査から、スモン患者の救済、重症筋無力症患者調査をきっかけに、弱者の立場に立った社会医学の分野での研究生活の中で、高齢者問題に興味をもち、関西医大の地元である守口市の独居高齢者の実態調査、和歌山県のアメリカ村の長寿高齢者の人は住環境によりつくられることを励まされております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたしますとともに、会員皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申しあげております。

新発売

ドパミン作動薬　劇薬　指定医薬品　要指示医薬品＊

カバサール®錠
0.25mg 1.0mg

一般名：カベルゴリン　薬価基準収載

Cabaser® CABERGOLINE

＊注意－医師等の処方せん・指示により使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細については、製品添付文書をご参照ください。

資料請求先　キッセイ薬品工業株式会社
製品情報部　東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号
TEL:03-3279-2304

ファルマシア・アップジョン株式会社
学術情報室　東京都新宿区西新宿3丁目20番2号
TEL:0120-417151

多変量解析により解明し、高齢者福祉・介護の重要性に目を向けた研究生活にとりくんでまいりました。一方、医学生、看護学生への公衆衛生学教育では、大阪市の保健所での七年間の経験と、子供を生み育てた経験を生かした衛生行政学、母子保健学と老人保健学を中心に、生まれる前から墓場までの教育をおこなってまいりました。

関西医大定年退職後は、介護福祉士養成教育にもかかわり、縁あって京都市内の仏教大学社会学部社会福祉学科に勤務することになりました。当初は、通信教育課程専任の教授として北海道から沖縄までの在籍数四万余人もの学生を対象にスクーリング教育、テスト採点、リポートの指導、課題研究論文・卒業論文の指導などについて、常勤教員や多くの非常勤講師の先生方とともに、努力して参りましたなかで、通信教育環境の改善の一つとして、入学定員のしぼりこみなどが効を奏して、半数ちかくになり、少しはまともな教育ができるのではないかと考えることができるようになった本年からは、通学教育過程をも兼任することになり、社会福祉学科主任としての忙しい日日を送っています。

仏教大学の通信教育課程は1953年（昭和28年）関西で最初に開設され、以来通学教育課程と両輪の関係をたもちながら、大学教育の開放という社会的要請に応えた五十年におよぶ通信教育の歴史をもっており

▼地域功労賞を受賞して

愛知支部　佐藤秩子

平成11年度の「地域医療奉仕活動への助成」を愛知県支部にいただけましたことありがたく御礼申しあげます。昭和40年に家庭で健康診断を受ける機会の少なかった人を対象に「婦人と子供の健康を相談する会」が発足して今年で三十五年になります。

月一回医師会館の一室で各科の支部会員が相談を担当してきました。公的な乳幼児検診の普及、他所での相談事業の新設、などさまざまなこれを取り巻く情勢の変化により、相談件数も減ってきました。何度となく、これを続けるか否かが問題になりました。これからの在り方を考えるためにも、とこれまでの二十五年と、最近の平成の十年間について、相談の内容、相談後の指導の実態など各科ごとに詳細なまとめと比較を行いました。相談の内容は科によって異なりますが時代の流れとともに変化しております。相談後の指導の内容をみますと、経過を観察しつつ指導により一応の満足を得ているのが40％前後という科も二、三あり、診断・治療を行わない相談には限界はあるものの、面談のみでも比較的悩みの核心に近付ける科のあることがわかり、今後さらに対処の方法を考慮することでより効果的に活動できるのではないか思いました。

この相談内容を踏まえて、女性の悩みに女医としてどう応えるかをテーマに昨年11月日本女医会公開シンポジウムを愛知県支部が企画して開かせていただきました。その時シンポジストの東京都墨東病院の対馬ルリ子先生が、米国のWomen's Health Centerを紹介され、今後大いにこのやり方を広めてやりましょう、といわれたのですが、討論で「すでに愛知支部では三十五年前からやっていらしたのですね。敬服します」といってくださいました。

今回、助成もしていただき、これまで先輩諸先生方が続けて下さったこの事業を、時代の要請にも合うように続けて行きたいと思っております。愛知県衛生部の主導で、三河地区でも同じような相談が持たれるようになり、愛知県の女性団体連合の「ウイルあいち」にも相談室が出来、結局女医会員が動員されるわけですが、これまでの歴史ある手作りの相談は大事に何とか続けて行きたいと思っております。

報告の詳細は医学雑誌「現代医学」に掲載されますので、ご希望の支部には別冊をお送りいたします。

▼学術研究助成を授与されて

群馬支部　安部由美子

このたびは、小浜智子先生（群馬支部・群馬大学臨床検査医学）との共同研究「妊婦血中インヒビン動態と胎児―胎盤系におけるインヒビン／アクチビン産生に関する研究」に対して、貴重な基金より学術研究助成を賜わり、まことにありがとうございました。

インヒビンは性腺で産生されていますが、霊長類では胎盤においても産生され、循環血液中に分泌されていることが特徴的です。また、アクチビンはインヒビンとサブユニットの一つを共通としますが、TGF-βと構造類似性が高く、細胞の増殖や分化に強い作用を発揮し、発生や形態形成過程にも深く関与していることが知られています。

ヒトでは子宮外妊娠や胎児死亡で血中インヒビンが低値となること、妊娠中毒症や妊娠糖尿病ではインヒビンとアクチビンが高値となること、などが報告されています。

ところで、インヒビンとアクチビンには分子種の多様性が存在し、性腺においては分子種により発現様式が異なることが知られていますが、胎児胎盤系におけるおのおのの分子

種の発現様式と作用、また、母体や胎児の疾患との関係の詳細は不明です。臨床検体や実験動物により、これらの詳細を探求することにより、母体と胎児の種々の病態の理解の一助となるものと考えます。

どのような研究費も有効に用いるべきことはもちろんですが、本助成金は会員の皆様の会費よりなることを考えますと、さらに一層研究に励むべきことを心に銘じております。

▼学術研究助成を授与されて

東女医学内支部　白鳥敬子

このたびは「消化管ホルモンの消化液分泌調節における生理的意義と治療的応用に関する研究」というテーマで、日本女医会学術研究助成を賜わり、ありがとうございます。

消化器官の基本的な生理機能はいうまでもなく食物の消化吸収であり、それをつかさどる消化液の分泌は自律神経とともに消化管粘膜より遊離する多種多様の消化管ホルモンにより制御されています。本研究では、消化液の分泌調節機構における消化管ホルモンの機能的意義を生理学的、分子生物学的に明らかにすることにより、消化器疾患の病態生理を解明し、消化管ホルモンの臨床的応用をはかることを目的としています。日常臨床では、消化器疾患のためさまざまな食事制限による低栄養状態がみられます。たとえば、胆膵疾患では脂肪制限が当然ですが、中鎖脂肪ならば膵刺激性が著明に少なく安全に投与できること、消化酵素の十分な投与が膵刺激性を抑制することなどを膵液分泌と消化管ホルモンの面から証明しえました。これらの結果は直ちに臨床にも反映され、疾患に対応した合理的な栄養療法を提案することを可能としました。また、悪性腫瘍のため胃や腸、膵の切除などが行われますが、消化管ホルモンの動態を検討することから、消化管再建法を評価することができました。

一方、糖尿病に膵炎や膵癌を合併するなど、膵外分泌と膵内分泌の密接な関係は臨床的にもよく知られています。今回、食後の膵液分泌の増加に、膵刺激ホルモンの他にインスリンが重要な増強因子としての役割を果たしていることを証明し、膵内外分泌相関の生理的意義を明らかにしました。さらに、コレシストキニン（CCK）を強力に投与すると実験的に急性膵炎が引き起こされますが、CCK受容体拮抗薬が食後の膵液分泌を抑制すること、実験的膵炎モデルで治療効果を示したことなどから、治療法の少ない膵炎に対し、受容体拮抗薬の臨床応用へ向けた開発の一端を担うことができました。

さらに、消化性潰瘍治療薬である粘膜防御因子増強剤に、セクレチン遊離促進作用をはじめて見い出しました。セクレチンは胃酸を抑制する一方、胃の血流や粘液分泌、重炭酸分泌を増加させる作用があります。漢方の基本薬である甘草抽出物にもセクレチン遊離作用を発見し、生薬の薬理作用の一部をホルモン遊離の面から解明しました。

以上のような成果をあげてきましたが、今回の受賞を期に、より一層この分野の研究に励んでいく所存です。女医会の諸先輩の先生方には、重ねて感謝いたしますとともに、今後もご指導とご鞭撻をよろしくお願い申しあげます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願い申しあげます。

終わりに、本研究助成の申請を勧めてくださいました東京女子医科大学名誉教授の大森安恵先生、本会へご勧誘くださいました理事の平敷淳子先生、推薦状をいただく上で貴重なご助言をいただきました群馬県女医会会長の角田智恵子先生をはじめとする本会の先生方に心から感謝申しあげます。

▼学術研究助成を授与されて

岐阜支部　清島真理子

平成12年度日本女医会学術研究助成をいただき、たいへんうれしく思っています。

私の研究テーマは「尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡および疱疹状天疱瘡発症におけるサイトカインの関与」です。天疱瘡は皮膚科領域における難治性疾患の一つであり、現在までの研究は専ら抗原の特定を中心として行われてきました。すなわち、尋常性および落葉状天疱瘡では、表皮細胞間に存在するデスモゾームタンパク質である、おのおのデスモグレイン3および1を抗原とする自己抗体が血清中に存在することが知られています。さらに、紅斑上に小水泡が環状に配列し、組織学的に好酸球の浸潤を伴った表皮内水疱を特徴とする疱疹状天疱瘡でも抗デスモグレイン1あるいは3抗体が血清中に存在します。しかし、これらの抗体が表皮細胞表面に結合後どのようなメカニズムで表皮細胞間の解離を引き起こし、水疱形成に至るかという点については未だ不明です。そこで、疱疹状天疱瘡、尋常性天疱瘡および落葉状天疱瘡発症において、表皮、細胞におけるサイトカイン産生が関与するのか、また、これらの疾患の病態の差異がサイトカイン産生に由来するのかという点について検討する目的で、これらの血清を培養液に添加した後の培養表皮細胞におけるサイトカインmRNAと細胞培養液中のサイトカイン濃度の検討を行いたいと考えました。

私は、岐阜大学皮膚科学教室北島康雄教授のもとで、天疱瘡抗体が表皮細胞表面に結合後、どのようなメカニズムで表皮細胞間の解離を惹起するかという点に注目し、天疱瘡抗体を培養液に添加後に培養表皮細胞においてプロテインキナーゼCを中心としたシグナル伝達メカニズムが関与し、表皮細胞でのウロキナーゼ・プラスミノーゲン・アクチベーター（uPA）受容体発現の増加と培養液中のuPAの増加の起こることを報告してきました。しかし、炎症細胞浸潤を伴った表皮内水疱を特徴とする疱疹状天疱瘡という天疱瘡の特殊型の発症メカニズムについては不明な点が多いのが現状です。

そこで今回は疱疹状天疱瘡発症に表皮細胞由来のサイトカイン産生が関与するかという点についての検討を計画しましたが、この研究は、疱疹状天疱瘡および天疱瘡の発症メカ

ニズムの解明とともに、治療法の開発という面からも意義のある研究になればと思っています。

この研究への助成を感謝するとともに結果を報告できるよう努力いたします。

〈総会特別講演〉

社会が求める医療をめざして

日本医師会常任理事　青柳　俊

日本医師会はとかく診療報酬引上げや薬価制度の問題など、目先の経済的問題でマスコミに取り上げられることが多くあり、残念に思っております。

しかし医療を担当する、責任ある立場を踏まえて社会にどのように貢献できるかを考えていることも、ご理解いただきたいと思います。

従来型の医療の役割としては、労働生産活動への影響の防止、乳幼児死亡率の減少や、平均寿命の延長などが、評価の指標として取り上げられていました。

少子・高齢化社会、とくに超高齢社会を迎えて、医療の役割が変化・拡大していることを認識すべきであると考えています。

一面的な見方からは、医療技術や医療・医薬機器の進歩が、結果として病める人を増やしているとの指摘も受けますが、医療技術などの進歩によって、病気を持ちながらも生活を続け、生産活動に従事することを可能にしているともいえると思います。生きがいを持って自立し、生産・消費活動に従事できる人口の増加、すなわち健康寿命の延長を図ることが、医療の社会に果たす大きな役割と考えることが大切な時代を迎えているともいえます。このことが、超高齢社会を否定的にとらえるか、肯定的にとらえるかの分岐点になると思います。

医療を担当するものとして、若年世代からの生活習慣病対策、とくに自立意識を基盤にした健康教育や健康増進活動、疾病管理や疾病予防、高い質の医療技術や医療提供システムの整備はもちろんのこと、長期リハビリや寝たきり予防、ＱＯＬの維持向上のためのリハビリなど、医療の提供サイドと国民サイドの意識改革が求められていると思います。

医療行為による消費的側面と投資的側面があることを十分踏まえ、自立曲線や労働力曲線の拡大と延長を図ることによって、生活・消費活動に関わる人口の増加を促進することが必要であり、さらには、社会保障関連産業活動による生産性の向上、税収効果、雇用効果などの波及効果を期待することができると思います。

本日は人口構造の変化、医療体制、医療財源の中期的な将来予測をお示しし、今後の医療の質の変化とその評価目標を考えながら、医療の社会に果たす役割について私見を述べさせていただきました。

青柳先生の講演

懇親会は三神先生の乾杯で始まった

支部連合会として―準備などなし

東京都支部連合会会長　斎藤歌子

日本女医会　第45回定時総会が無事終了いたしまして、ご同慶に存じます。

総会に提案されました、予算案、事業報告、決算報告などの議題とともに、２００２年の日本女医会創立百周年記念の件、２００４年開催の国際女医会議誘致の件も満場一致の賛成で可決されました。

本部役員の選出も、会長・副会長はじめ、ほとんどの役員がご留任で、一名欠員の監事も立候補者一名で補充され、前年度に引きつづき、意欲あふれる新執行部が誕生しました。頼もしいかぎりでございます。

百周年の件も、国際女医会議誘致の大きな事業も、この体制で立派になしとげられることとぞんじます。

東京都支部連合会は、本総会において左記の事務をお引きうけし、本部に協力いたしました。

◇5月19日＝全国各地から総会にご参加のため、ご上京の先生方が、快く滞在され、総会にご参加いただけるよう、心を配りました。

①観劇―新橋演舞場　猿之助

②大相撲五月場所―マス席　椅子席

③前夜祭―京王プラザホテル（午後7時より）五十名以上ご出席で盛会でした。

◇5月20日

①朝食会―京王プラザホテル（午前8時より）在京の役員も出席。自己紹介後、いろいろなご意見も出、活発なお話会の場となり、有意義でした。

②総会会場にお茶席をもうけました。会議の合間の息抜きにご利用者多数でした。

③お土産―総会出席者全員に、橋本葉子会長のお世話の絹のスカーフ（大変好評でした）

④総会の懇親会（本部主催）の余興―上原まり氏　筑前琵琶演奏の提供

◇5月21日

前進座（中村梅乃助、梅雀他）観劇―久しぶりの前進座で、芸達者の梅之助、梅雀、河原崎国太郎他の出演で、見ごたえのある芝居でした。百名以上ご参加でした。

以上、支部連合会の総会における

役割についてご報告いたしました。

21世紀にむけて、日本女医会のますますの発展を期待しております。

総会こぼれ話

東京都支部連合会副会長　中山年子

第45回日本女医会総会のお手伝いを無事に済ませて、ホットしたというのが東京都支部連合会員一同のいつわらざる心境です。三年ごとに東京らしい特色を盛り込んだ企画をするのは頭の痛いことでした。

特に今回は役員改選の年ですが、会長、副会長選挙のみというのは参加者の数がつかみにくく、直前まで変動があるので事務局も大変だったと思います。支部連合は前夜祭、朝食会、懇親会の余興と観光を受け持ち、少しでも皆様に楽しんでいただこうと思って考えるのですが、結局は前回と同じになってしまいました。

前夜祭に「ビンゴゲーム」をとの斎藤会長のご発案で「貰って迷惑でない物」という賞品を選びましたが、いかがでございましたか。ゲーム運びに不慣れなわれわれをお助けくださった青森県支部長前田慶子先生の軽妙なディラー振りで、暖かいなごやかな盛りあがりが会場に充ちるのが感じられ、ありがたく感心するばかりでした。

お茶席は守屋副会長の肝煎りで、緋毛氈の立札席に垣根を配し、そこにご自宅から運ばれたお花を飾って会議のお疲れを癒すようにと設営に苦心されました。その甲斐あって用意された大量のお菓子が足りなくなって急処補給するほどの盛況で、嬉しい悲鳴というありさまでした。噂によれば、季節を表わす特製の五種類のお菓子すべてを頂戴しようと何回も足を運ばれた方もあるとか（その中の一人は私です）。守屋先生、御社中の皆さま、本当にありがとうございました。

筑前琵琶の上原まりさん

ホッと一息のお茶席も好評

懇親会の余興も、東京らしくて喜んでいただける企画は難しく、若手歌舞伎役者の素踊りも東京ならではで不可能となりまして、筑前琵琶の上原まりさんに頼みました。上原まりさんは宝塚歌劇団のトップの娘役さんでしたがお母様の後継者として琵琶という楽器は馴染みのない楽器ですからどうかと思い心配しましたが、曲が皆様ご存知の「静の舞」で、白拍子静が鶴ヶ岡八幡宮において愛する人を恋い慕いつつ舞った女心に共感を覚えられたのか、会場はシーンとして魅入られたように聴きほれておられたご様子でホットしました。

お土産の選定も毎度苦労の種ですが、今回の正絹大判スカーフは橋本葉子会長のお世話です。幸いにも好評を得ることができて一安心しました。

不行届きの事も多く、反省すると悔もありますが、すべて終った今、思うことはこれで精一杯だったという爽やかな達成感と、ご多忙の中文句もいわずに快く協力してくださった多数の会員と事務職員の方々への感謝です。有難うございました。

来年は佐賀ですばらしい会が開かれると思いますが、のんびりとした気分で参加させていただこうと期待して今から楽しみにしております。

お茶席雑感

東京都支部連合会副会長　守屋孝子

今年のお茶席は田辺先生（私どものお茶の先生）が出られなかったこと。いつもすべてをお任せして私どもはただ動いているだけだったのに。でも私どもだけでなんとかしなくちゃ。とその朝ちょっと心細い思いで目がさめました。雨がしとしと降っていました。昨夜のうちにすべて準備して、今日は七時に「みずき」の部屋に全員集合。その「みずき」の部屋におもちゃのような垣根が用意してありました。早速うちから切って来た大山れんげの一輪を垣根に飾りました。まだ雨の滴が残っていました。これで殺風景なホテルの部屋もちょっと風情ができました。お菓子は当日造るので朝9時にならないとホテルには届きません。

8時半に朝食会を済せて降りて来られる方のために「清月堂」の「おとし文」を用意しました。これで準備OKいつでもどうぞ。

朝食会の後、評議員会の前後、総会の前後、皆様が来られる時間は大体決まっています。何人の方がお茶を召しあがってくださいましたでしょうか？　十数年前京王プラザで初めて国際女医会が開かれて以来、総会のたびに（途中中断したこともありますが）お茶席を準備して参りました。もし今後もこのようなお茶席を設けることが何らかのお役にたてるのであるならば、今後なさる方のご参考までに。ホテルで用意してくれるもの――大きな傘、床几、緋毛氈、金屏風。その他のお茶のお道具たとえば美園棚、お釜、水差し、お茶椀などはすべて自分で用意。

お菓子は例年なら百五十個くらい、お抹茶は二〇〇グラム、選挙などがあって人数が増えた時はまた別です。

以上思いつくまま。

第45回定時総会に参加して

宮崎支部　柳田喜美子
（都城市北諸県郡医師会会長）

このたび総会にお招きを受け、久しぶりに参加させていただきました。会長の橋本葉子先生に初めてお会いする機会を得、また平成2年ブリスベンで開催の西太平洋地域国際女医会議でご講演された山崎倫子元会長先生、三神美和先生の髪結としたお姿、またブリスベンの会議前ご一緒に旅をしたなつかしい石原幸子副会長先生、日本医師会で二年間ご一緒に仕事をさせていただいた青井禮子先生始め、諸先生方のご壮健なお姿に拝眉することができました。

当時三年生であり、同行した娘も今は内科医として毎日奮闘しておりますが、今回ともどもお世話になりました。

当県は女医会の活動は今のところまだ活発ではないようです。若い医師への啓蒙と意識調査も必要なときかなあと感じているところです。

さてご依頼を受けた現況などを少し書かせていただき、その責を果たしたいと思います。私は昭和36年熊本大学医学部卒業後、昭和41年熊本大学大学院医学研究科小児科学博士課程を修了し、八代総合病院、国立都城病院小児科医長を経て開業、かたわら、国、県、市の医療以外の分野にもたずさわり、医師会では理事を十四年のうち、六年間を県の常任理事として、また八年間は看護学校の校長等をしてきました。他、学校保健、健康教育、介護保険（現在都城北諸地域介護認定審査委員会会長）、日医の医療関係者対策委員、各種委員会など、多忙に過ごしてまいりました。

このたび、平成12年4月1日を以って、会員の総意を得て都城市北諸県郡医師会第十五代会長に就任しました。同時に医師会病院長、救急医療センター所長も兼任いたしております。当医師会は明治21年8月に設立され、現在会員数二三五名を擁する伝統ある医師会であり、九つの施設を有しており、ひとしお責任の重大さを痛感しているところです。このため十年四ヵ月努めた教育委員長職務代理者の任もこの3月で依願退任しましたが、このことも私にとりましては医療と教育の間の諸問題を扱う意味でよい経験となりました。役職も少しずつ整理はしておりますが、唯一女性の分野で「みやざき女性交流活動センター理事長」としてがんばっております。

この上は医師会のお世話役として今までの経験を生かし、微力ながら会務に専念し、地域医療の向上に専念致す決意であります。現在の医療を取り巻く環境は、ことのほか厳しく、介護保険の新たな導入を迎え、整合性のとれた医療、保健、福祉のトータルネットワークづくりが求められる一方で、病診、診診、病病連携、医療の効率化、情報開示などが強く求められてきております。四次改正の重要課題を抱えるなかで医政への関心を持ち、地域に役立つ医師会活動を目指し、その運営に力を結集していきたいと思っております。さらなるご支援を賜わりますようお願いし、各地でご活躍の女医会のみなさまのご健勝を祈念し、今後ともご交誼賜わりますようお願いいたします。

お相撲観戦

高知支部　窪斐子

日本女医会総会のイベントとして東京都支部運合会が企画して下さった大相撲五月場所に参加しました。

高知からは二人でしたが、別々に上京するので午後4時頃に国技館で会う約束をしました。イス席の切符を送ってくださっていたので、女医会の人たちはたくさん一緒に行くのだろうと思っていました。

当日、日耳鼻総会が信濃町の明治記念館であったので、朝からシンポジウムなど聞いて午後3時過ぎに電車で両国へ、テレビで見たことのある幟がたくさん立っていた国技館はわかりました。このまま入っていいのかなと見廻しましたが誰も知っている方もいないので番号の席に落着きました。一番前列でしたが二階なので土俵ははるか遠くに感じました。今の取組は電光掲示板があるから分かるけれど、一体女医会の人たちはどこに陣取っているのでしょう、枡席を見渡しましたがそれらしい団体はわかりません。

相棒はまだ来ていないようです。

去年の秋、高知へ巡業に来た時は通路の席で、力士がそばを出入りし、表情まで見え、毛ムクジャラだったり意外と肌がすべすべしてきれいだと思ったことでした。

隣席の老夫婦に聞くと「切符の裏にお茶屋さんの番号があるでしょう」といわれたので、私はそこを素通りして席についていたので、13番のお店に行くと小肥りのおかみさんが気づかないで申しわけないと何度も詫びてくださり、お土産の大きい袋を出し、今夜ホテルに泊ることを聞いてなま物を他のものと交換してくださいました。

中入り後も通路を気にしてはいたが、なかなか相棒は現われません。独特のかけ声などを聞きながら、二段重ねのお弁当をひろげました。

いよいよ土佐の海の出番になったがさすがの私も大声をあげることはできず、ひそかに念力を送ったがバッタリと土がついてしまいました。隣りの老婦人が「いい力士なのにいつも同じ負け方をして惜しいねえ、せっかく応援にきているのにね」と同情してくれました。そして引退した若の花は洋服姿で対面の通路で警備にあたっていることも教えてくれました。相撲の世界は厳しくて元横綱でも引退したら一年目の仕事につくのだそうです。日本の伝統あるスポーツだから良い所は残して、悪しき習慣は変える方がいいと思います。

相撲は閉鎖的で八百長があるとか脱税とか暗いニュースを聞くにつけ、今の時代に合うようにシステムをかえ、もっと皆が楽しめるように新風を入れた方がいいのではないかと思います。

この日は暑くも寒くもなく、取組もいま一つ盛り上りに欠けているように思えました。しかし貴の花が千代大海に土俵下へ押し倒された時はさすがに歓声があがり座布団が飛び

毎回好評を頂いておりますパソコン教室を開催致します。
お買い物や情報収集は、すべてパソコン1台でできる時代になりました。お医者様の情報交換はいずれパソコンが主流になるでしょう。近い将来、この会報もインターネットでご覧になる時がくるかもしれません。診療所やご家庭でも、これからパソコンは必需品になってきます。この機会に是非奮ってご受講下さい。

■東京会場
株式会社　東芝OAコンサルタント講習会場（渋谷駅からバス5分程度）

日程（すべて土日）	コース名	内容
10月21日～22日 1月13日～14日	パソコン入門	はじめてパソコンを使う方に、基本操作(Windows 等)をお教えします。初心者の方は、まずこのコースから受講してください。
11月11日～12日 2月17日～18日	インターネット	インターネット・電子メールの使い方をお教えします
11月11日～12日 1月13日～14日	文書作成	ワープロソフト(Word)についてお教えします。
10月21日～22日 2月17日～18日	表計算	表計算ソフト(Excel)についてお教えします。

・各コースとも土日1．5日間コースです(土曜日は診療後に受講できます)。それぞれ2回ずつ開催します。
・はじめての方も全く心配は要りません。奮ってご受講下さい。

■大阪会場・名古屋会場でも開催されます。お近くの方に別途ご案内を送付させて頂きます

お申込方法：下記お申込書をご記入の上、FAXしてください。
受講料：　1コース　50，000円（テキスト・昼食込み・1．5日間）　当日お支払い下さい。
時　間：　1日目(土)　15:00～18:00　　2日目(日)　10:00～16:00
・お申込受付後、別途ご案内を送付させて頂きます。　・パソコンは1人1台で使用して頂きます。
・受講者の極端に少ないコースは中止とさせて頂くことがあります。
・直前（開催1週間前から）のキャンセルは、別途キャンセル料をご請求させて頂きます。

FAX番号　：　03－5454－3374
(株)東芝OAコンサルタント　教育営業担当　若月行き

お　申　込　書

ご希望コース：
ご希望日　：
住所　：(〒　－　)
名前　：
TEL　：　FAX　：

ました。

連れはとうとう来ませんでした。お土産を二人分もらって、お隣りさんに礼を言って国技館を後にしました。吐き出された人波は延々と続き、タクシー乗り場でたっぷり三十分は待ってようやく順番がきました。

当初、女医会が旗でも立てているのではないかと予想した私の勘は見事にはずれ、観戦したのは多分私たち二人だけだったのでしょう、慣れない東京でウロウロして、そう国技館のトイレにも行かずにタクシーに乗りこみ、座席に深く沈みこみました。今日は雨が降らなくてよかった、年輩の運転手さんととりとめのない話をしながら、薄暗くなった森やビルやネオンを見ながら高速を突っ走って、京王プラザに着いた時はどっと疲れが出ました。ヤレヤレ田舎者にはしんどい相撲観戦でした。

初めての観劇

青森支部　金田八重子

前進座歌舞伎五月特別公演は、三宅坂国立劇場大劇場で、今年、五世河原崎国太郎没後十年にあたるため五世の代表作「五大刀恋縅」「一本刀土俵入」と初登場の舞踊「うかれ坊主」の三演目でした。女医会から百余名もの満席で、その人気に驚きました。

劇は単純なストーリーながら、現代では忘れてしまってお目にかかることもない美しい色使いの衣装、あでやかな河原崎國太郎の小万、山村邦次郎のお蔦の優雅な立居振舞い、たおやかなしぐさ、そしていかにもりりしく男らしい嵐圭史の源五兵衛、藤川矢文輔の三五兵衛、中村梅之助の茂兵衛の名演技にゆったりとした時の流れを堪能しました。

中でも私の気を引いたのはテレビでおなじみの中村梅雀の舞踊でした。奇妙ないでたちで軽やかな身のこなし、なめらかに流れるリズムによく乗った手さばき足さばきは天性のものでしょう。一朝一夕にはできないと驚嘆し楽しみました。

東京で女医会総会の時はいつも観劇のお誘いがありましたが、興味がなく、国立劇場も歌舞伎もこの年になって初めてです。

田舎生れの私は伝統芸能にふれるチャンスはなく、幼いころ大人に連れられて、ドサ廻りの田舎芝居をかい間見る程度、大げさな身振り手振りや奇異な言動は芝居がかっているとかサルマネと軽んじられて育ったため、立ち入ってはいけない虚構の世界とむしろ敬遠しておりました。テレビのチャンネルも切りかえて見ることもないズブの素人です。

このたび女医会のお陰で、日本古来の伝統芸能にふれ、見直し、今さら開眼し、ちょっぴり見聞を広められたと感謝いたします。

有珠山救援募金報告

北海道支部　濱田啓子

2000年5月20日、第45回日本女医会総会の会場で、北海道有珠山噴火募金活動をさせていただいた。突然のお願いながら橋本会長はじめ会員皆様の暖かいお気持ちを受けて、総計一三万一四四六円もの募金を頂戴した。3月27日の火山性地震の急増に始まる有珠山（七三二m）の火山活動は、地元周辺の多くの住民に窮屈な避難生活を余儀なくさせた。

北海道医師会のまとめによると、有珠山火山活動に関する避難医療機関及び救護班派遣医療機関は以下の如くである。

避難医療機関は、二病院三診療所（洞爺協会病院、幸清会病院、洞爺フアミリー・クリニック、石田内科、峰村内科）。ちなみに洞爺協会病院では、ド・ド・ドーンと突き上げるM4・2の地鳴りと揺れの中、二八一名の患者さんの転送をすべて人力で一日のうちに強いられるという考えられないような事態が繰り広げられた。

救護班派遣機関は、国公立、災害拠点病院（北大、札医大、道立病院など八病院）また道、道医協定分医療救護班として室蘭市医師会、苫小牧市医師会等々所属の二八余の医療機関、また精神保健班（心のケア班）として北海道精神病院協会依頼の六医療機関等々が心身ともなるサポートを、被災地で行った。

洞爺協会病院の院長がおっしゃられていたように、避難者の気持ちは避難者が一番よく分る。「避難者の避難者のための避難者による救護所があってもいいではないか！」との力強い決意のうちに、避難医療機関はおのおの外来再開、診療所開設を続々と始めている。

現在、避難指示の解除が次々となされ、仮設住宅への移住も行われてきている。一部温泉街のホテル・旅館の営業も順次再開されてきている。なにはともあれ、地元の住民は、大きな打撃を受けつつも、全国の皆さまの物心ともなる強力なバックアップのもと「完全復活」にむけてがんばっておられる。

このようななかで、先日の有珠山噴火募金は北海道支部総会での七万円とあわせ、総計二〇万一四四六円を5月22日に北海道新聞社窓口を通して被災者に届けられた。

会員の皆さまに感謝とお礼かたがた一言ご報告させていただいた。今後も北海道より全国会員各位のさらなるご活躍を期待する。

WHO神戸会議に参加して

副会長　加藤竺子

WHO健康開発総合研究センター主催、女性と健康に関する国際会議が「より良い保健福祉システムを目指して―女性の展望」をテーマに、2000年4月5日から7日まで淡路夢舞台国際会議場において開催されました。海外参加者約三〇人を含む一五ヵ国、約一〇〇名余の専門家や女性問題に関心のある幅広い分野の専門家の参加により盛大で実りの

ある国際会議でした。

特に北京での第四回世界女性会議の事務局長を務められたタンザニアのAdvacacy for Women in Africa会長Getrude I Mongella大使が参加され、北京会議のフォローアップの必要と影響について、また女性の視点が意思決定に反映されるために女性のリーダーシップ訓練の促進の必要を強調されました。

本会議は、Mongella大使の司会で優先事項の設定、改革への挑戦をテーマに保健福祉システムにおける問題点の分析と改革に必要な優先課題について検討が行われました。

アメリカ保健福祉省のスーザン・F・ウッド博士は「女性の健康と福祉に影響を与える問題と要因について」発表、ニュージーランド、オタゴ大学ルース・シック博士は「女性の展望」と題して講演され、女性特有の保健ニーズを慎重に評価する必要を訴え、その裏付けとして必要な世界的データが不充分なことを指摘されました。コスタリカの保健次官シニア・カルバヤル・サラザール博士は女性の保健福祉問題について、政府の事業やプログラムに男女の主流を明らかにすることの重要性を強調されました。

会議は、三日間にわたり三グループに分かれて、それぞれのテーマについて討論が活発に行われ、国内外の熱心な専門家の研究発表があり、興味深く勉強になりました。またコーヒーブレイクやレセプションでは国際交流や専門的ネットワークづくりが活発に展開されていました。

会議の最終日は、会議の議長を務められたオーストラリア、キャンベラ大学総長のウェンディー・マッカーシー博士がまとめ役でThe Awaji Statement淡路声明が発表されました。今回、女性の健康福祉の問題をテーマにWHOの国際会議が日本で開催されたことは、6月6日からニューヨークで開催される「女性2000年国連特別総会」にむけての予備会議の役割として、たいへん有意義であったと思います。日本でこのような国際会議を開催してくださったWHO健康開発総合研究センターの川口雄次所長に心から敬意を表します。

■書評

堀口雅子　編・著
「低用量ピル適正使用マニュアル」

〈㈱じほう発行・A5判一七九頁・定価二〇〇〇円〉

新宿支部　上田嘉代子

四十年前より避妊のために世界的に服用され、その安全性と有効性が広く認められている低用量ピルは、昨年9月にようやくわが国でも認可された。

本書は、低用量ピルの避妊への高い有効性や安全性が知られながらも認可が遅れる行政に対し、堀口雅子氏を会長とする「性と健康を考える女性専門家の会」('97年発足)が、女性自らの手で、ピル認可に対する研究、調査、社会活動に取り組んだ結果を踏まえ、女性の「性と健康(身体的・精神的・社会的に良好な状態)」の向上を目ざす強い思いから著された好著であり、従来の医師向けのガイドラインにありがちな並列的、平面的内容とは一線を画している。

第一部＝人体とホルモンのはたらきで女性の生理の基礎知識。

第二部＝避妊の現状と実態では、日本の避妊の特徴と各種避妊法の解説がなされた。

第三部＝ピルの開発認可の経緯と、低用量ピルの作用、製剤の種類と特徴、服用方法、服用希望者へのカウンセリングとフォローの重要性、服用開始時の有用性あるスクリーニング検査の実際、服薬指導に関し、医師、薬剤師、助産婦おのおのの立場からの取り組み方のポイント、副効用、性感染症の実態と予防と、適正なピル使用のため、あらゆる角度から書かれ、さらにQ&Aや資料として経口避妊薬のWHO適用基準やOC情報センターと各製薬会社の相談窓口が記されているのが嬉しい。

ピルがQOL向上のために用いられる医薬品であり、正しい情報に基づく使用者の自己決定が重要とされるため特に、服用者へのカウンセリングの重要性が強調されている。

執筆者は、ジャーナリスト、産婦人科医、看護婦、助産婦、保健教諭、薬剤師と、多方面の専門家から成り、そのほとんどが女性である。

そのため実際に服用する女性の視点から、使い始めて直面するさまざまな疑問や不安に対し、詳しくわかりやすく、実際的な解説が、実物の写真や図表も使ってなされており、ピルを勧める側にとって、心強い一冊である。

この本を、女性が自分自身の、また男性が女性の身体のしくみを知り、それを思いやるという性教育のテキストとして、医療サービス提供者だけでなく広く一般の人々にも読んでもらいたいと思うほどである。

支部だより

山梨支部から
―支部総会を開催して―

山梨支部　古屋節子

6月25日当日、偶然にも衆議院選挙の投票日に当ってしまいましたが、新入会員三名を含めて二三名の出席を得ました。役員も総入れ替えでしたので多少の不安もありましたが、会場も若向きに趣向をかえて立食パーティ式にいたしましたが、かえって自由に思い思いに話がはずみ、特にお若い方々が活き活きとしているようにお見受けしました。

特別講演もスポーツ外傷・骨粗鬆症の演題にて整形外科医の藤原篤先生より「救急時のR・I・C・E処置」と「女性とスポーツ選手の骨密度」の比較などスライドを交えて解り易くお話を伺い有意義でした。

当支部も創立四十年以上ともなりますと老齢化が進み会員数の減少傾向に歯止めがかかりません。そこで若い会員を募るべく、心当たりの方等三〇名以上にお誘いの便りを出してみました。結果三名でしたが、入会を希望する方を得ましてホットいたしました。今後もたとえ一年に一人でもよいのでこの努力を試みようと思っております。

また支部長の交代も早め、早くトップを活力ある若いパワーにお委せ

し、時代の流れに添った実力のある魅力ある会にと望んでいます。そして総会等にも極力出席し、国際的にも通用する魅力ある会員にも接し、また他支部のパワーを肌で感じて来るのも、きっと得るところが多く、ご自身の成長にも繋がることと信じます。

私の大学【日本大学医学部】

埼玉支部　渡利弘子

日本大学は明治22年に創立され、医学部が大正14年に日本大学専門部医学科として創設され、平成7年に七十周年をむかえました。

付属病院としては大正15年に駿河台病院、昭和10年に板橋病院、昭和51年に稲取病院、平成3年に練馬光が丘病院が開設されました。また平成3年には駿河台病院と板橋病院に三次救急医療を目的とした救命救急センターができました。重症救急患者に対するベッドサイドでのコピューター管理システム導入により、より高度医療を行えるようになりました。とくに頭部外傷や脳卒中患者の成績は評価されているようです。また平成5年には板橋病院が特定機能病院として承認され医療連携を深めた地域医療への貢献にたずさわっています。

最近のトピックスとしては、今年4月より東洋医学科を板橋病院に開設し、あたらしい分野へも挑戦しています。

わが医学部は板橋病院に隣接する敷地内にあり、とてもキャンパスといえるような大きなスペースはありません。昭和50年当時プレハブ校舎で勉強したこともありましたが、その後少しばかりの緑の中に新しい基礎棟や研究棟、図書館など続々と建っていきました。学生の頃の思い出として、小児科の馬場教授のもと日本で初めての五つ子が板橋病院に入院していた時、昼休み友達と歩いていてインタビューを受けたことがありました（残念ながらテレビではありませんでしたが）。

私たちのときは女性が多くなったといわれても学年の一割程度でしたが、古い校舎では女性用トイレも十分ではなく、外科や整形外科などへの入局はなかなか難しいものもあったようです。最近では二～三割の女性が卒業し、各医局でも女性医師が活躍しています。女性医師は日大同窓生六六〇〇人のうち七四五名ですが、大学では女性は助教授までで残念ながらまだ教授は輩出されておりません。これから女性パワーの活躍が楽しみです。

医療事故がとりざたされている昨今ですが、日大病院が掲げているように『病院は病者のためにある』という理念のもと、慣れにおごることなく、さらに発展していってもらいたいものです。

理事会議事録

日　時：平成12年2月26日（土）
午後3時

場　所：（社）日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、大坪、栗原、澤口、佐々木、鹿田、清水、西嶋、久田、平敷、松井、丸茂、宮原、村田、中濱、野澤（以上20名）

欠席者：大澤、川田、佐藤、田中、松本、吉崎（以上6名）

1月理事会の議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告
別紙どおり報告。　宮原理事

二、会計報告
平成12年1月分収支別紙どおり報告。　承認
栗原理事より会費納入状況の説明があった。

三、各部報告

【学術部】
・先月22日開催のワークショップ成功裡に終了。協力に対し謝辞があった。　平敷理事

【広報部】
・日本女医会誌、162号の会誌原稿を募集中。　大坪理事
・次号より掲載する広告の申し込みは順調にある。全面広告は二ヵ月連続掲載では九万円、三ヵ月連続掲載では八万円とする。

【事業部】
・第二回パソコン教室の申し込みは現在のところ、初級クラス二〇名、フォローアップ一六名。まだ、定員に達していないので、協力を要請。　丸茂理事
・公開講演会の予算を上げては、との意見が出され協議した。高知支部には四〇万円を助成。役員出席予定は約一〇名。
・「地域医療奉仕活動に対する助成」は唯一申請があった愛知支部「婦人と子供の健康を相談する会」に授与する。

四、各賞選考結果
吉岡弥生賞「社会に貢献した部門」
橋本美知子会員（大阪第10支部）
「医学に貢献した部門」
山本纊子会員（愛知支部）
荻野吟子賞　応募者なし
学術研究助成
白鳥　敬子会員（東女医学内支部）
安部由美子会員（群馬支部）
清島真理子会員（岐阜支部）

協議事項

一、定時評議員会、定時総会の件
・評議員会、総会での議題を決定する。
・議題の一つ「2004年国際女医会議の件」について、各理事の意見を要請。JTBと打ち合わせしたものを次回理事会にて検討する。

二、平成14年度総会開催地の件
・石原副会長が甲信越の各支部と青森支部に打診する。

三、平成12年度事業計画案および予算案の件
・庶務部ブロック別懇談会に三〇万円、環境整備小委員会に二〇万円の予算をとる。
・会計部より、今年度の繰越金は一〇〇〇万円くらいになる見込み。厳しい状況が続くので来年度は予算の90%以内で納めてほしいとの希望があった。
・パソコン教室は希望も多いので事業として来年度も継続する。
・会誌広告収入は雑収入に繰り込まれる。
・青井理事より
東京都支部連合への総会費用について、今までは総会登録料もなしで七〇万円のみだったが、来年度より一〇〇～一二〇万円にしてはとの意見が出され、承認される。

四、その他
・山崎名誉会長の医療功労賞受賞お祝いの会（4月4日）の出席者を募る。
・清水理事より
(1)会員の減少は避けられないので、ブロック別懇談会等を開催し各支部会員との対話の重要性を再確認した。
(2)各賞に必ず候補者が出るように、募集の広報を徹底してほしい。
(3)百周年記念史の進行状況に関して質問
広報部が担当。既に業者・構成などの検討済み。総会後に改めて計画案を検討し、理事会に提出する。
・国際女医会について
(1)一人当たり六スイスフランに値上がりした。昨年度と同額として納める。
(2)誘致の準備金は「国際女医会記念事業基金」より活用する。
・橋本会長より
山崎名誉会長より「医療功労賞の賞金を日本女医会百周年記念事業に寄付したい」とのお申し出があったとの報告。
・事業部より「いきいき」への執筆協力に関し風土社と契約を見直し、女医会としての一つの事業とする考えがある。
・日本女医会のホームページには会長の許可を得て、新情報を載せる。

以上

三、各部報告

【事業部】
久田理事
・バザー出品へ協力を要請。最大の収益を上げるために努力をする。

【広報部】
佐々木理事
・第162号会誌割付会議を3月21日に開催。
・162号会誌より広告が入る。今回は約五〇万円の収益を見込めそう。

協議事項

一、定時評議員会、定時総会の件
・評議員会、総会での議題を決定する。
・議題の一つ「2004年国際女医会議の件」について、各理事の意見を要請。JTBと打ち合わせしたものを次回理事会にて検討する。

二、平成14年度総会開催地の件
・石原副会長が甲信越の各支部と青森支部に打診する。

三、平成12年度事業計画案および予算案の件
・庶務部ブロック別懇談会に三〇万円、環境整備小委員会に二〇万円の予算をとる。
・会計部より、今年度の繰越金は一〇〇〇万円くらいになる見込み。厳しい状況が続くので来年度は予算の90%以内で納めてほしいとの希望があった。
・パソコン教室は希望も多いので事業として来年度も継続する。
・会誌広告収入は雑収入に繰り込まれる。
・青井理事より
東京都支部連合への総会費用について、今までは総会登録料もなしで七〇万円のみだったが、来年度より一〇〇～一二〇万円にしてはとの意見が出され、承認される。

四、その他
・山崎名誉会長の医療功労賞受賞お祝いの会（4月4日）の出席者を募る。
・清水理事より
(1)会員の減少は避けられないので、ブロック別懇談会等を開催し各支部会員との対話の重要性を再確認した。
(2)各賞に必ず候補者が出るように、募集の広報を徹底してほしい。
(3)百周年記念史の進行状況に関して質問
広報部が担当。既に業者・構成などの検討済み。総会後に改めて計画案を検討し、理事会に提出する。
・国際女医会について
(1)一人当たり六スイスフランに値上がりした。昨年度と同額として納める。
(2)誘致の準備金は「国際女医会記念事業基金」より活用する。
・橋本会長より
山崎名誉会長より「医療功労賞の賞金を日本女医会百周年記念事業に寄付したい」とのお申し出があったとの報告。
・事業部より「いきいき」への執筆協力に関し風土社と契約を見直し、女医会としての一つの事業とする考えがある。
・日本女医会のホームページには会長の許可を得て、新情報を載せる。

以上

三、各部報告

【事業部】
久田理事
・バザー出品へ協力を要請。最大の収益を上げるために努力をする。

【広報部】
佐々木理事
・第162号会誌割付会議を3月21日に開催。
・162号会誌より広告が入る。今回は約五〇万円の収益を見込めそう。

協議事項

一、定時評議員会、定時総会の件
・評議員会、総会での議題を決定する。
・議題の一つ「2004年国際女医会議の件」について、各理事の意見を要請。JTBと打ち合わせしたものを次回理事会にて検討する。

二、平成14年度総会開催地の件
・石原副会長が甲信越の各支部と青森支部に打診する。

三、平成12年度事業計画案および予算案の件
・庶務部ブロック別懇談会に三〇万円、環境整備小委員会に二〇万円の予算をとる。
・会計部より、今年度の繰越金は一〇〇〇万円くらいになる見込み。厳しい状況が続くので来年度は予算の90%以内で納めてほしいとの希望があった。
・パソコン教室は希望も多いので事業として来年度も継続する。
・会誌広告収入は雑収入に繰り込まれる。
・青井理事より
東京都支部連合への総会費用について、今までは総会登録料もなしで七〇万円のみだったが、来年度より一〇〇～一二〇万円にしてはとの意候補予定である。同じ西太平洋地域会議に属するので日本も応援する。
・日本からもMWIAの会長を出すためナショナルコーディネーターとして若い会員を育てていくとの平敷理事からのコメントがあった。

以上

理事会議事録

日　時：平成12年3月25日（土）
午後3時

場　所：（社）日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、大坪、佐々木、澤口、清水、田中、久田、平敷、松井、丸茂、村田、吉崎、中濱、野澤（以上18名）

欠席者：大澤、川田、栗原、佐藤、鹿田、西嶋、松本、宮原（以上8名）

2月理事会議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告
別紙どおり報告　清水理事

二、会計報告
平成12年2月分収支、別紙どおり報告、承認される。
収入につながる事業の企画を依頼。
また、現在までの会費納入状況の説明があった。今年度も約85%の見込み。

三、各部報告

【事業部】
久田理事
・バザー出品へ協力を要請。最大の収益を上げるために努力をする。

【広報部】
佐々木理事
・第162号会誌割付会議を3月21日に開催。
・162号会誌より広告が入る。今回は約五〇万円の収益を見込めそう。

協議事項

一、定時評議員会、定時総会の件
・評議員会、総会での議題を決定する。
・議題の一つ「2004年国際女医会議の件」について、各理事の意見を要請。JTBと打ち合わせしたものを次回理事会にて検討する。

二、平成14年度総会開催地の件
・石原副会長が甲信越の各支部と青森支部に打診する。

三、平成12年度事業計画案および予算案の件
・庶務部ブロック別懇談会に三〇万円、環境整備小委員会に二〇万円の予算をとる。
・会計部より、今年度の繰越金は一〇〇〇万円くらいになる見込み。厳しい状況が続くので来年度は予算の90%以内で納めてほしいとの希望があった。
・パソコン教室は希望も多いので事業として来年度も継続する。
・会誌広告収入は雑収入に繰り込まれる。
・青井理事より
東京都支部連合への総会費用について、今までは総会登録料もなしで七〇万円のみだったが、来年度より一〇〇～一二〇万円にしてはとの意

理事会議事録

日　時：平成12年4月22日（土）
午後3時より

場　所：（社）日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、川田、栗原、佐々木、澤口、鹿田、清水、田中、西嶋、平敷、松本、丸茂、松井、宮原、村田、吉崎、中濱、野澤（以上22名）

欠席者：大澤、大坪、佐藤、久田（以上4名）

3月理事会議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告
別紙どおり報告、承認される。　宮原理事

二、会計報告
平成12年3月分収支別紙どおり報告、承認される。　川田理事
栗原理事より会費納入状況の説明があった。

三、各部報告

【事業部】
・「いきいき」との新規契約の手続き中。理事会に来てもらい正式な契約を結ぶ。　丸茂理事
・平敷理事より事業部で会員作成の「中学生・高校生向きの性教育の冊子」を販売してはとの提案があった。

【渉外部】
・「総理府男女共同参画推進連携会議第8回会合」出席の報告。　松井理事

【広報部】
・会誌162号はでき上がり、近日中発送の予定。　佐々木理事

【学術部】
・10月1日（日）に国際会議出席のために来日中のメルボルン大学のLorraine Dennerstein 教授他による「Women's Health」に関する講演会を開催予定。　平敷理事

【橋本会長からの報告】
・以前計画のあったアメリカ女医会とのジョイントシンポジウムはアメリカ女医会の都合により中止となる。
・ロゴマークの件
応募案の二点より選んだ一点を専門家に完成を依頼する。

【加藤副会長からの報告】
・WHO健康開発総合研究センター主催「女性と健康に関する国際会議より良い保健福祉システムを目指して―女性の展望」（5月5～7日）に出席の報告。

【石原副会長からの報告】
・学会開催時の託児所に関する調査の報告。
・女性と仕事と未来館で健康相談。
・日本医師会の少子化対策委員として平成10、11年の二年間の担当を終えたとの報告。

協議事項

一、第45回定時総会の件（バザーも含む）
・評議員会、総会の次第に基づき、担当者を決める。
・評議員会終了後、引き続き支部長会を開催する。話題提供の先生を検討する。
・「新役員の互選による会長、副会長の選任」を総会の第7号議案とする。

・バザーへの協力を要請。
二、2004年国際女医会の件
JTB、コンベンションと話し合った案を検討、下記のように総会に諮る。
・日時：2004年7月28日(水)夜～8月1日(日)夜
・会場：京王プラザホテル
・テーマ：Medicine in a New Life style-education, research and practice（ニューライフスタイルにおける医療）
三、監事の件
・従来通りの選出で行う。
四、その他
・総会に出店を希望の業者があり、出席理事の承認を得る。
・青井理事より会員増強のため東京の東部地域の女性医師を対象として「臨床と法知識」と題し講演会（7月1日於：パークホテル）を予定している。理事会で承認を得る。
・川田理事より
大阪でパソコン教室を開催したく、4月29日の大阪の支部総会に諮りたいとの申し出があり、理事会で承認を得る。
以上

副会長（庶務部担当）　橋川　清水、宮原

評議員会議事録

日時：平成12年5月20日(土)
場所：京王プラザホテル
（東京都新宿区西新宿2-2-1）

午前9時34分開会
司会　清水　洋子
社団法人日本女医会評議員開催に際し
評議員数　一〇七名
出席数　六八名
記名委任数　二一名
白紙委任数　六名
以上のとおり日本女医会定款第27条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり開会を宣す。

会長挨拶　橋本葉子

報告
一、会務および事業報告　宮原茂子
配布ずみの資料にもとづき報告
二、平成11年度特別会計報告　青井禮子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医会議記念事業基金会計
年金会計
以上について配布ずみの資料にもとづき報告

議長選出
竹内静香　〔議長席に着席〕

議事録署名人選出
大畑信子、加藤光子

議事
第1号議案
(1)平成11年度一般会計収支計算書　栗原久子
配布ずみの資料にもとづき報告
(2)剰余金処分案　栗原久子
次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決
会計監査報告
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。
第2号議案
平成12年度事業計画案　橋川ふさ子
庶務部
会員増加推進
吉岡弥生賞
学術部
研究助成
学術講演研修会を年数回開催
事業部
年二回公開講演会の実施
荻野吟子賞、地域功労賞
地域医療奉仕活動への助成
社会保険新報社への原稿協力について、月刊「いきいき」に健康記事掲載
講習会等の事業実施
渉外部
国内各団体との交流
国際交流
他団体との公開講演会の開催
国連NGO国内婦人委員会として活動
女性の異業種団体との交流
広報部　橋川ふさ子
機関紙の発行
各種委員会　橋川ふさ子
女医の環境整備小委員会
百周年記念事業委員会
以上原案どおり可決
第3号議案
平成12年度一般会計収支予算案　川田喜代子
原案どおり可決
第4号議案
2004年第26回国際女医会議立候補の件　橋本葉子
開催地：東京
会期：2004年7月28日(水)～8月1日(日)
会場：京王プラザホテル
テーマ：ニューライフスタイルにおける医療－教育、研究、診療
原案どおり可決
第5号議案　橋本葉子
日本女医会創立百周年記念事業の件
・2002年5月18日(土)京王プラザホテルにおいて記念式典及び祝賀会を開催
・百年史刊行
・ロゴマークの決定
原案どおり可決
第6号議案　橋本葉子
次期および次々期総会開催地に関する件
次期開催地（2001年5月19日(土)）　佐賀県
次々期開催地（2002年5月18日(土)）　東京
原案どおり可決

閉会の辞　石原幸子
午後11時17分閉会

会員動静（敬称略）

◇入会
笹森由美子（平成5年卒）北海道
石黒　妙子（昭和44年卒）埼　玉
早水　陽子（昭和63年卒）練　馬
◇退会　三五名
◇物故
森田　キヨ（昭和5年卒）青　森
若菜　織恵（昭和19年卒）葛　飾
小出矩美代（昭和26年卒）中　野
込宮　久江（昭和24年卒）静　岡
宇都宮幸枝（昭和10年卒）和歌山
幸田　トミ（昭和5年卒）徳　島

編集後記

第45回定時総会は盛会裡に終了しました。新しい仕事が山積しています。まず、2002年5月の日本女医会百周年記念事業への取り組が始まっています。2004年夏、東京における国際女医会議誘致の件も、準備が進められています。理事会は、心を一つにしてこれらの大きな事業を成し遂げようとしています。
猛暑が続きます。お体を大切に日日の女医の仕事にお励みください。
「在宅で死を迎へむという人の両手握れば握り返しきぬ」　（大坪）

日本女医会誌
第163号
平成12年8月25日　発行
編集人　大坪　公子
発行人　橋本　葉子
制作　㈱金剛出版
発行所　社団法人　日本女医会
東京都渋谷区渋谷2－8－7
青山宮野ビル　電話 03-3498-0571
〒150-0002　FAX 03-3498-8769
http://www.jade.dti.ne.jp/~jmwa/
e-mail adress: jmwa @ jade.dti.ne.jp